

平成 17 年 4 月の地震活動及び火山活動について

○ [地震活動]

4 月 11 日 07 時 22 分に千葉県北東部でマグニチュード(M)6.1 の地震が発生し、千葉県及び茨城県の一部で震度 5 強を観測しました。

4 月 20 日 06 時 11 分に福岡県西方沖で M5.8 の地震が発生し、福岡市などで震度 5 強を観測しました。この地震は、3 月 20 日の本震以降、これまでの最大の余震で、本震の余震域の南東端付近で発生しました。地震活動は、この地震により一時的に活発化しましたが、全体の活動は本震－余震型で推移しており、余震活動は減衰してきています。

全国で震度 1 以上が観測された地震の回数は 194 回、日本及びその周辺における M4 以上の地震の回数は 76 回でした。

震度 3 以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙 1 のとおりです。また世界の主な地震は別紙 2 のとおりです。

○ [火山活動]

噴火が観測されたのは、三宅島、阿蘇山、桜島及び諏訪之瀬島でした。阿蘇山では 14 日にごく小規模な噴火が発生し、火山活動度レベルを 2（やや活発な火山活動）から 3（小規模な噴火の可能性）に変更しました。三宅島及び桜島の噴火はごく小規模なもので、諏訪之瀬島の噴火は通常の山頂噴火が継続したものです。浅間山では、活発な噴煙活動が継続し、微弱な火映現象が頻繁に観測されており、火山活動度レベル 3 が継続しています。三宅島の多量の火山ガスの放出は依然として継続しています。

注 1：気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注 2：地震活動および火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編) 4 月号（5 月末頃に気象庁ホームページ掲載予定）をご覧ください。

注 3：平成 17 年 5 月の地震活動及び火山活動については、平成 17 年 6 月 7 日に発表の予定です。

2005 年 4 月の主な地震活動^{注 1)} 別紙 1

番号	月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考／コメント
1	4月3日	17時41分	福島県会津地方	5	4.5	3	内陸の浅い地震
2	4月4日	2時57分	福島県沖	44	5.3	4	太平洋プレートと陸のプレートの境界の地震
3	4月10日	20時34分	福岡県西方沖	5	5.0	4	3月20日福岡県西方沖の地震(M7.0)の余震
4	4月11日	7時22分	千葉県北東部	52	6.1	5強	太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界の地震
5	4月11日	15時34分	千葉県北西部	73	4.4	3	太平洋プレートの沈み込みに伴う地震
6	4月17日	20時09分	千葉県南部	69	4.4	3	フィリピン海プレート内部の地震
7	4月19日	10時46分	鳥島近海	441	6.0	2	太平洋プレート内部の地震
8	4月20日	6時11分	福岡県西方沖	14	5.8	5強	3月20日福岡県西方沖の地震(M7.0)の最大余震
9	4月20日	9時09分	福岡県西方沖	13	5.1	4	3月20日福岡県西方沖の地震(M7.0)の余震
10	4月23日	0時23分	長野県北部	4	4.1	4	内陸の浅い地震

注 1) 「主な地震活動」とは①陸域でM4.0 以上かつ震度 3 以上地震、②海域でM5.0 以上かつ震度 3 の地震、
 ③M6.0 以上の地震、④以前に取り上げた地震活動で、活動が継続しているもの。
 注 2) 「その他の活動」とは①主な地震活動の基準に該当する地震で 2005 年 5 月中に発生したもの。

その他の活動^{注 2)}

月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考／コメント
5 月 2 日	1時23分	福岡県西方沖	11	5.0	4	3月20日福岡県西方沖の地震(M7.0)の余震
5 月 7 日	4時52分	東京都多摩東部	32	4.2	3	フィリピン海プレートの沈み込みに伴う地震
5 月 8 日	15時04分	栃木県南部	10	4.5	4	内陸の浅い地震

・地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果

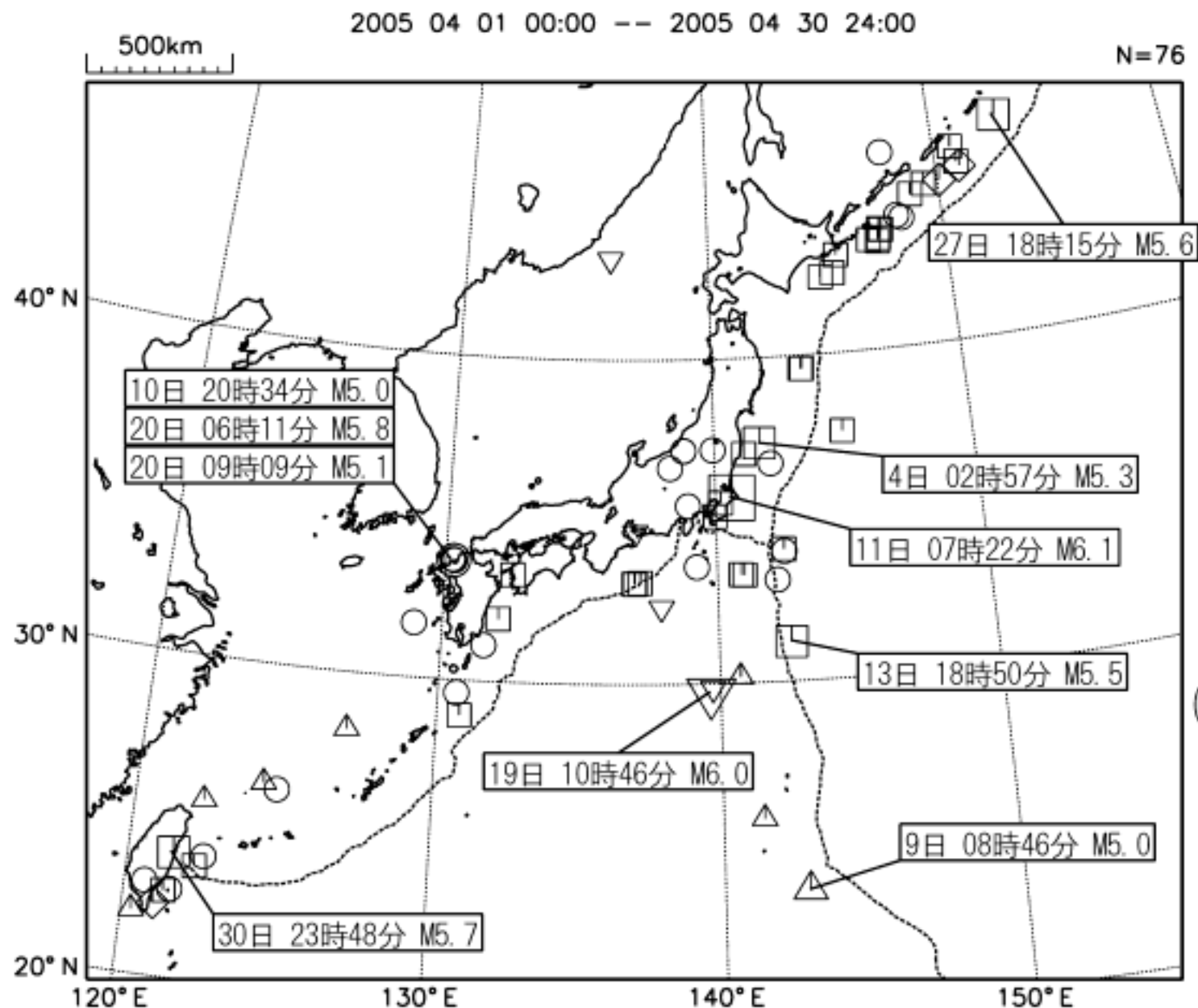
2005 年 4 月 25 日に気象庁において第 229 回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会（定例会）を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表しました。その後も地震・地殻活動等の状況に変化はありません。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖直下で通常より活動レベルの低い状態が続いていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

地殻変動については、昨年 9 月 5 日の東海道沖（紀伊半島南東沖）の M7.4 の地震以降、この地震による余効変動と見られる動きが観測されていました。最近ではこの地震以前の状態に戻りつつあり、プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる長期的な地殻変動が継続していると考えられます。

2005 年 4 月の全国の地震活動（マグニチュード 4.0 以上）



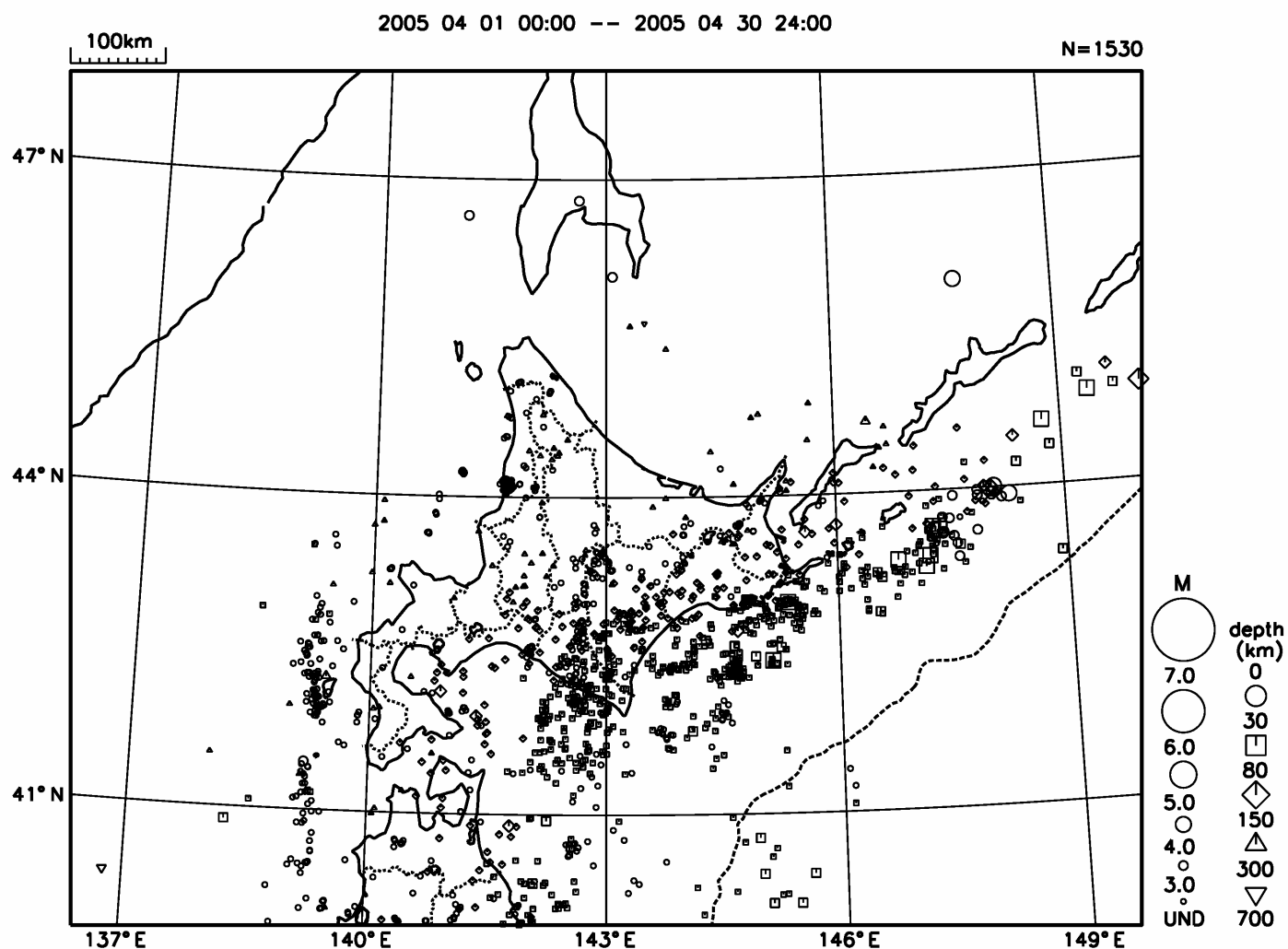
千葉県北東部で4月11日にM6.1の地震があった。

福岡県西方沖で4月20日にM5.8の地震があった。

鳥島近海で4月19日にM6.0の深発地震があった。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震はM5.0以上の地震、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震はM6.0以上、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。]

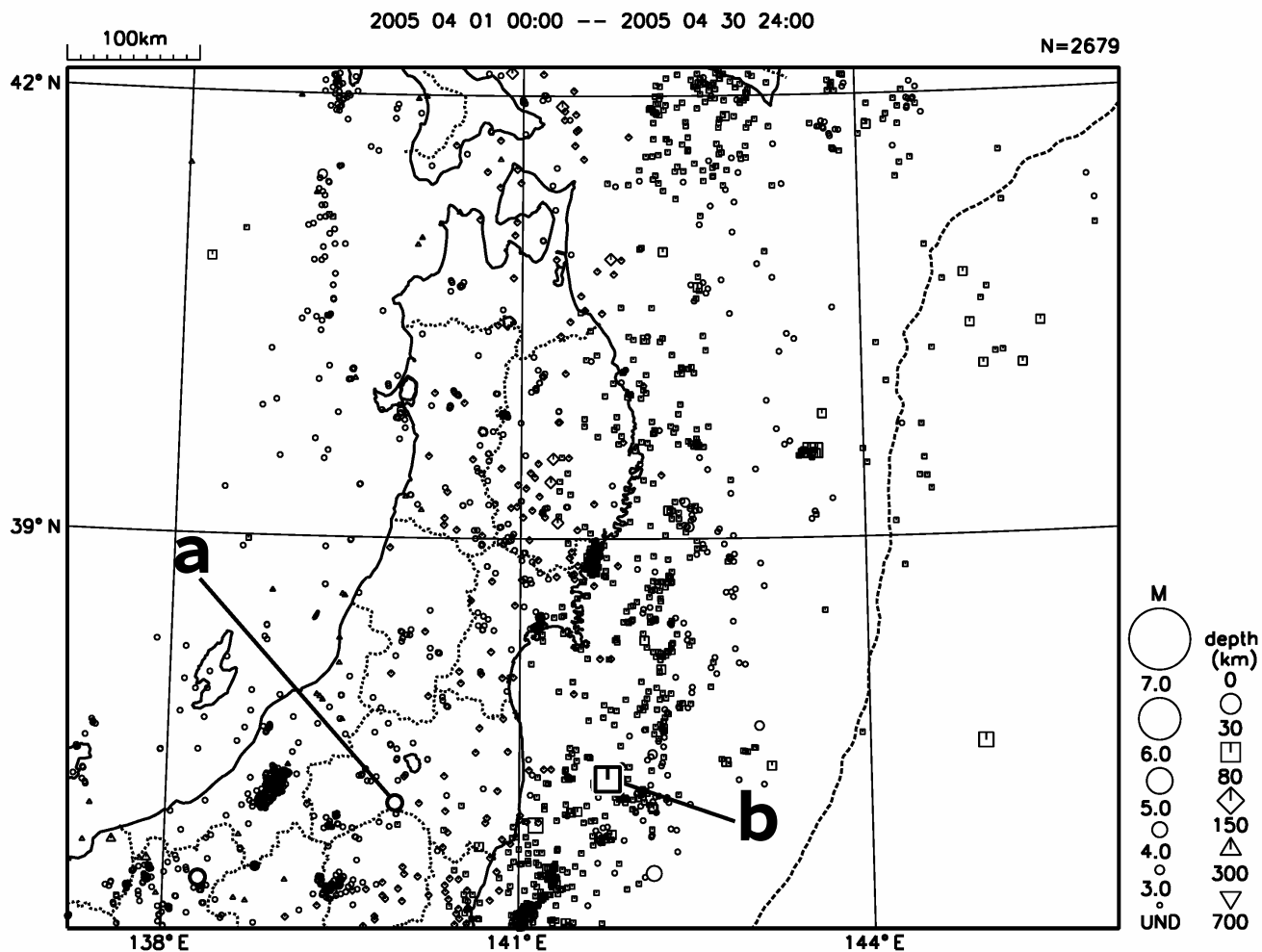
北海道地方



特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

東北地方

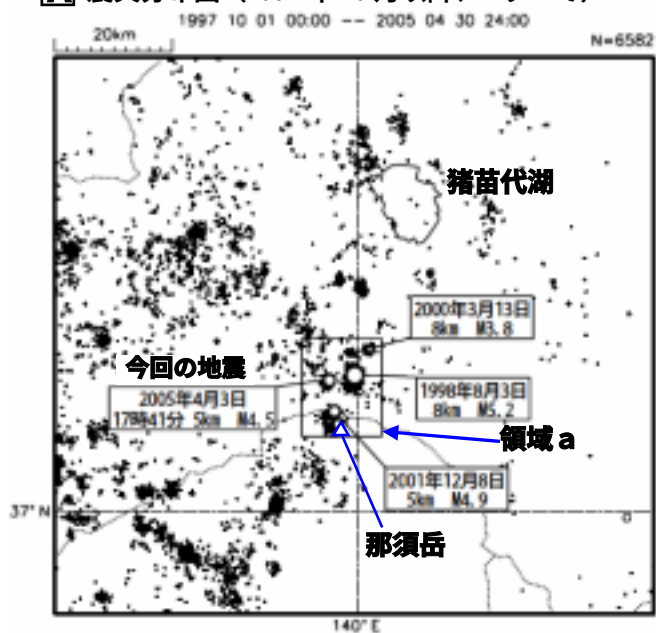


- a) 4月3日に福島県会津地方で M4.5 (最大震度3) の地震があった。
- b) 4月4日に福島県沖で M5.3 (最大震度4) の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

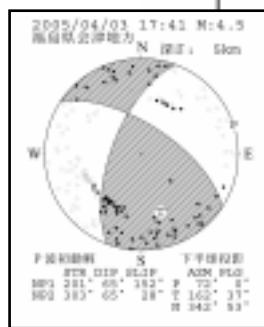
4月3日 福島県会津地方の地震

A 震央分布図 (1997 年 10 月以降、M すべて)

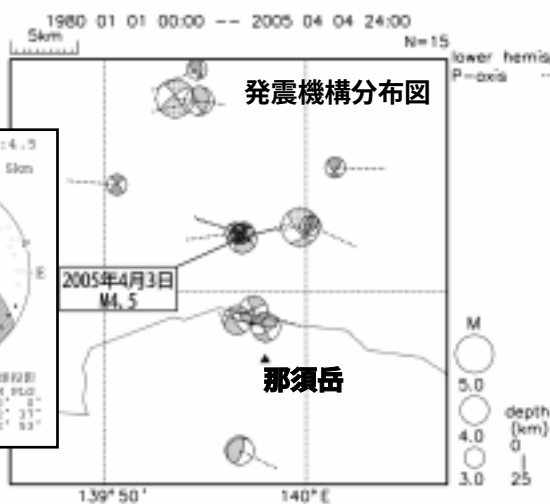


2005年4月3日17時41分に福島県会津地方の深さ5kmでM4.5（最大震度3）の地震が発生した。発震機構は東北東－西南西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、この付近の地震によく見られるタイプである。この地震の後、活発な余震活動がほぼ半日程度続き、200回を超えた。その後余震活動は1週間程度で収まった。今回の地震付近では1998年8月3日にM5.2の地震があり、今回と同様、活発な余震活動を伴った。（**A**）

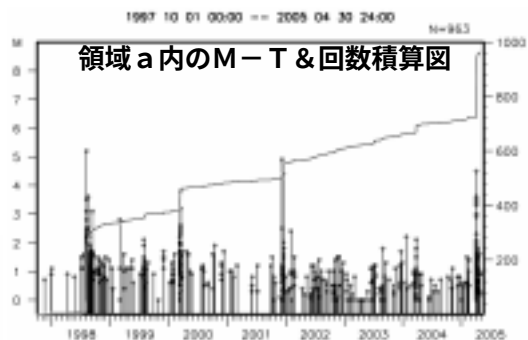
今回の地震 の発震機構



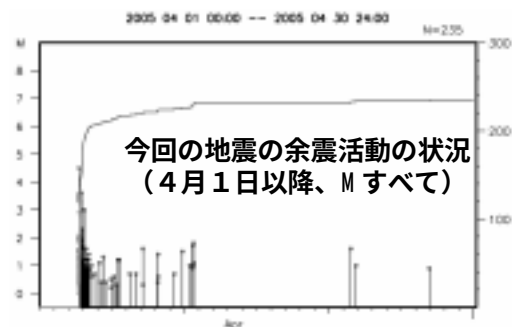
発震機構分布図



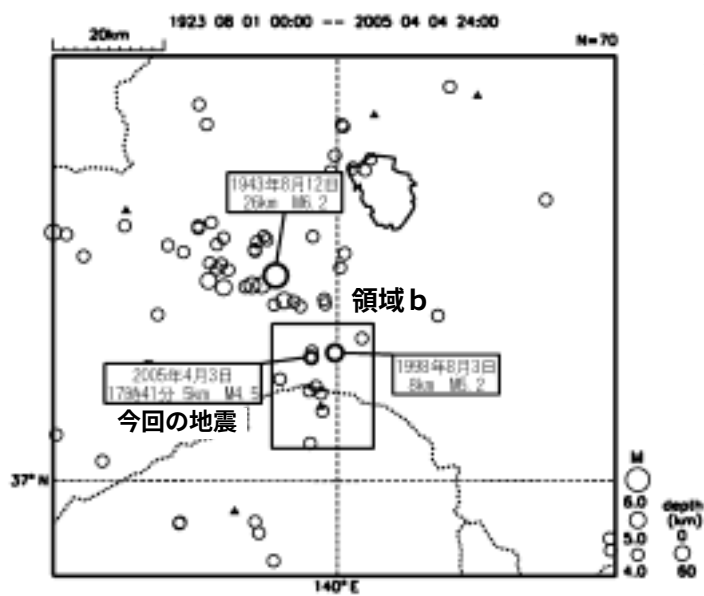
領域 a 内の M-T & 回数積算図



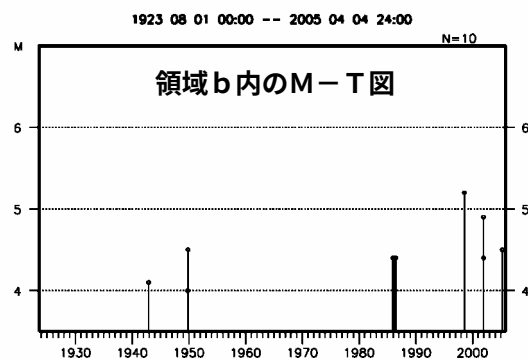
今回の地震の余震活動の状況
(4月1日以降、Mすべて)



B 震央分布図 (1923 年 8 月以降、 $M \geq 4.0$)

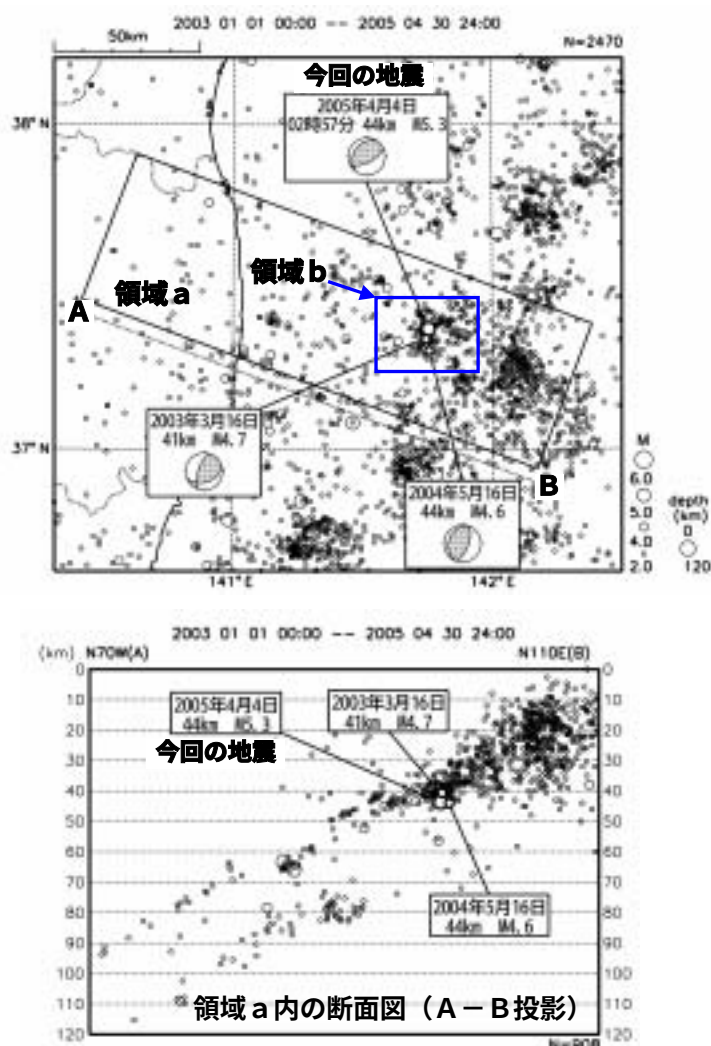


領域b内のM-T図

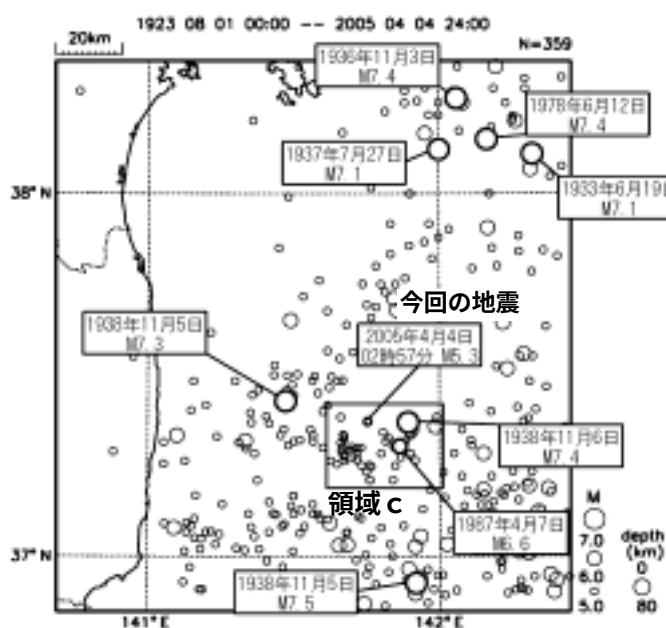


4月4日 福島県沖の地震

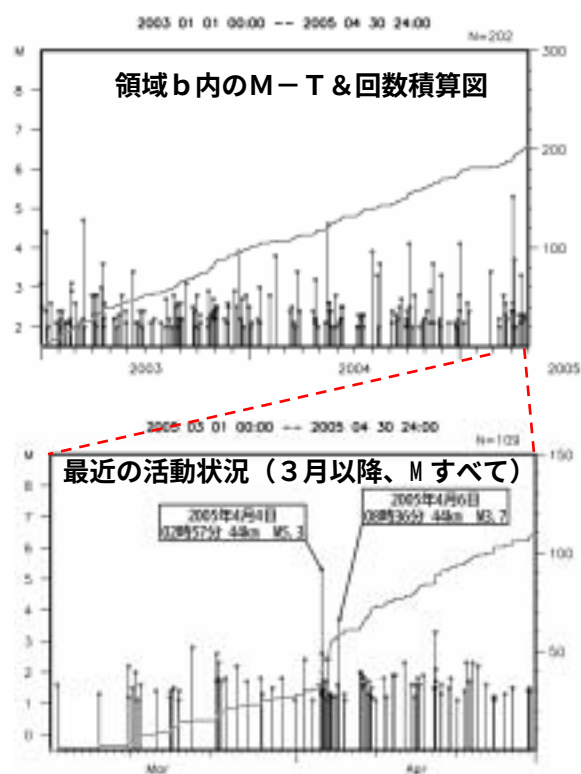
A 震央分布図（2003年以降、 $M \geq 2.0$ ）



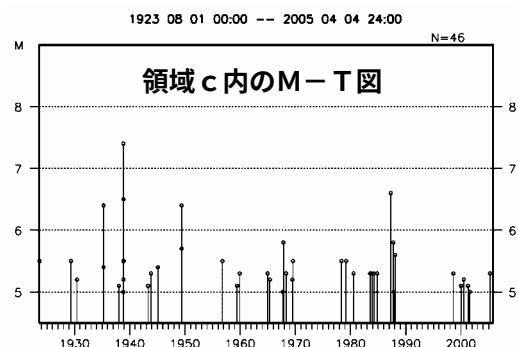
B 震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 5.0$ ）



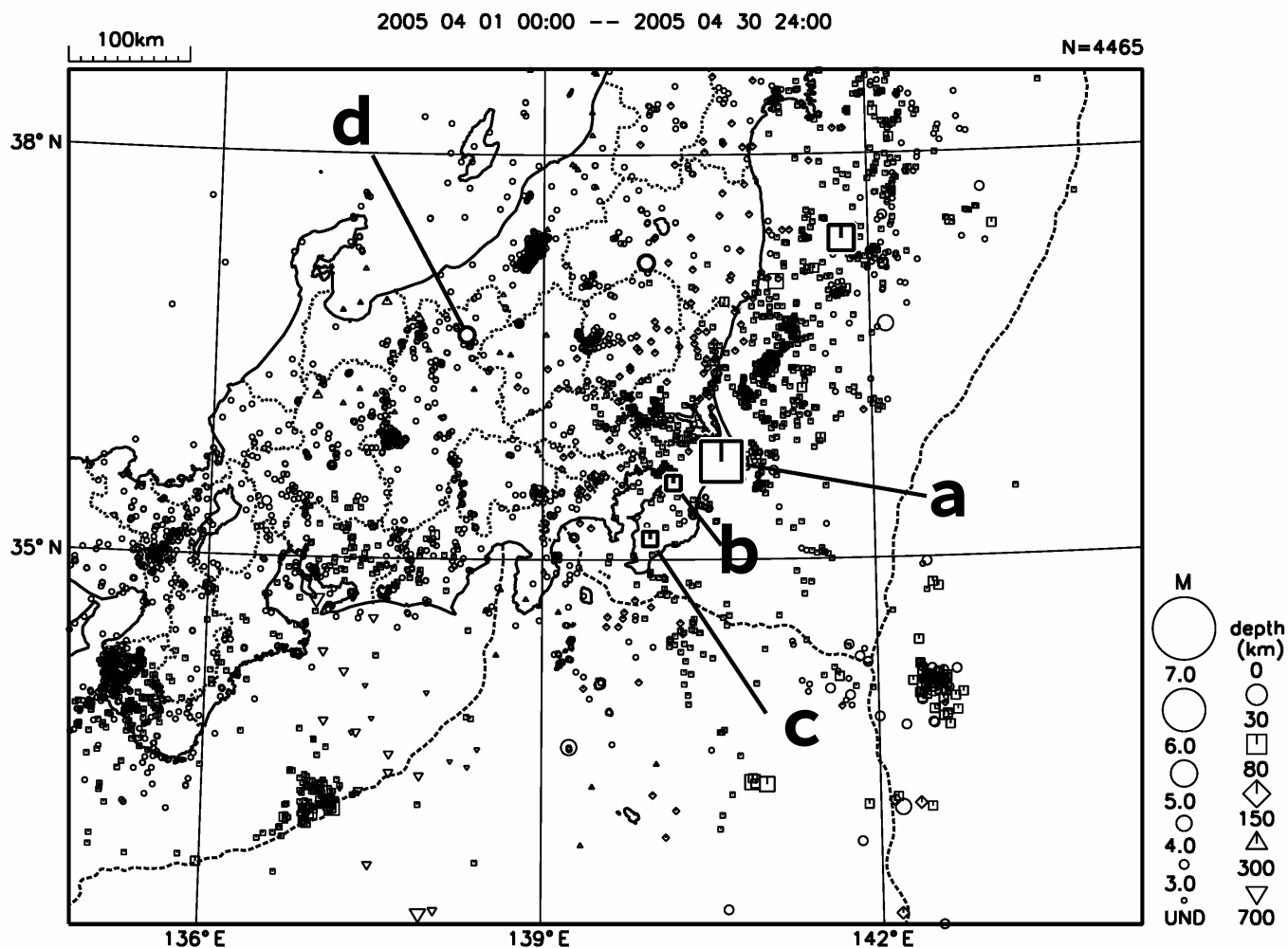
2005年4月4日02時57分に福島県沖の深さ44kmでM5.3（最大震度4）の地震が発生した。発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界の地震である。余震活動は11日24時まで40個程度が観測された。最大の余震はM3.7（4月6日、最大震度1）であった。4月末現在、地震発生前の活動レベルにほぼ戻ってきている（**A**）



福島県沖では、1938年11月5日に福島県東方沖地震（M7.5）が発生し、その約2時間後にM7.3、6日にはM7.4とM7クラスの地震が3回続けて観測されている。今回の地震は1938年11月6日のM7.4の地震に比較的近いところで発生した。1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の付近（領域c）ではM5.0以上の地震が数多く発生している。（**B**）



関東・中部地方



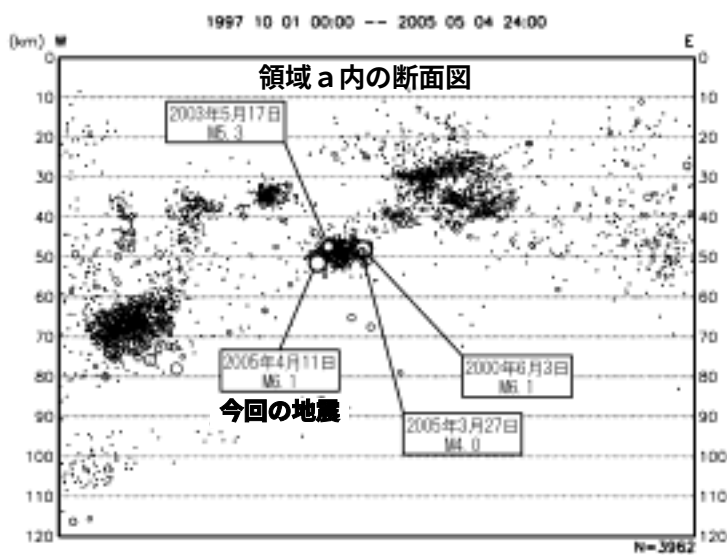
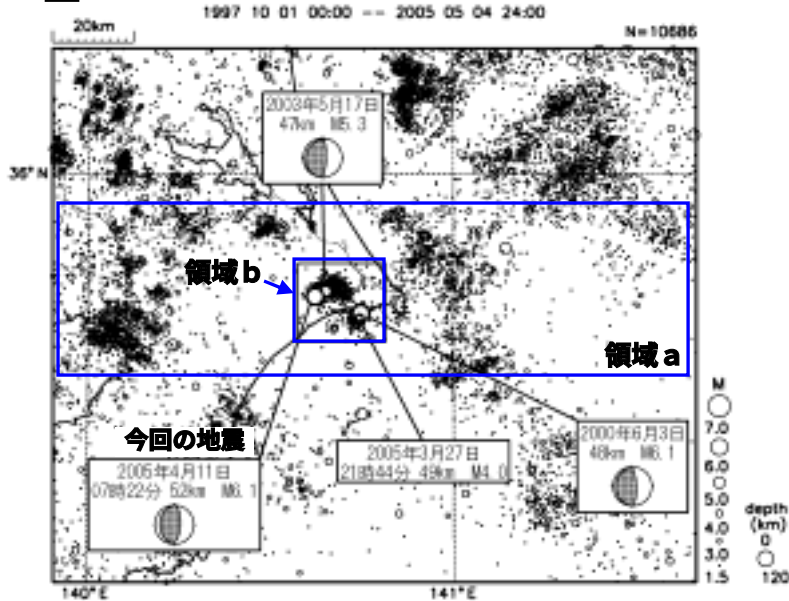
- a) 4月11日に千葉県北東部で M6.1（最大震度5強）の地震があった。
- b) 4月11日に千葉県北西部で M4.4（最大震度3）の地震があった。
- c) 4月17日に千葉県南部で M4.4（最大震度3）の地震があった。
- d) 4月23日に長野県北部で M4.1（最大震度4）の地震があった。

なお、期間外であるが、5月7日に東京都多摩東部で M4.2（最大震度3）の地震、5月8日に栃木・群馬県境付近〔栃木県南部〕で M4.5（最大震度4）の地震があった。

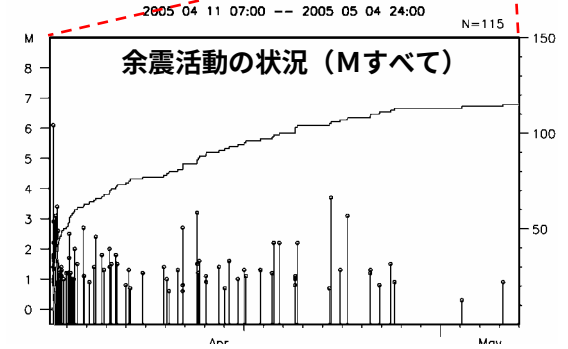
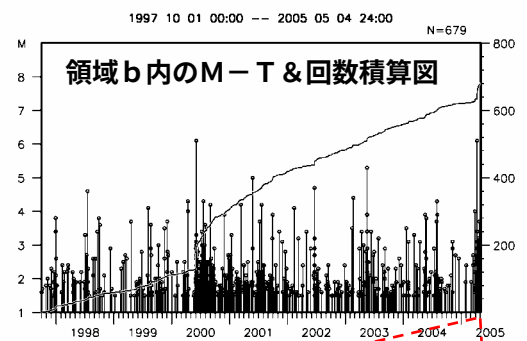
[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

4月11日 千葉県北東部の地震

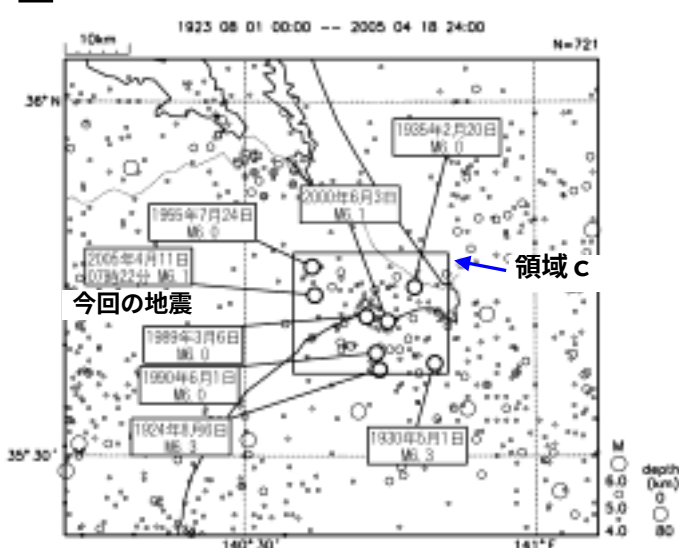
A 震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 1.5$ ）



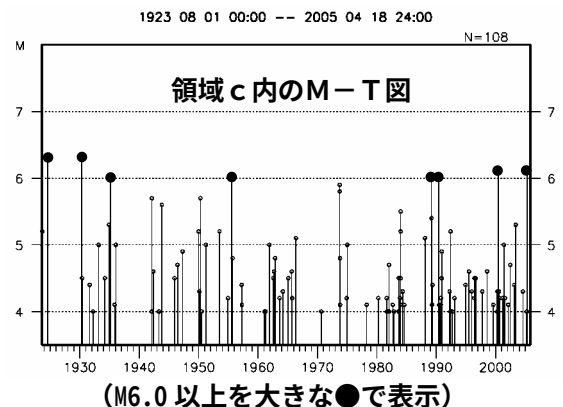
2005年4月11日07時22分に千葉県北東部の深さ52kmで $M 6.1$ （最大震度5強）の地震が発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震である。余震活動は4月中にほぼ収まった。今回の地震付近には明瞭なクラスタがあり、活発な活動が見られる。最近では、2000年6月3日にも $M 6.1$ （最大震度5弱）の地震が発生している。（**A**）



B 震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 4.0$ ）

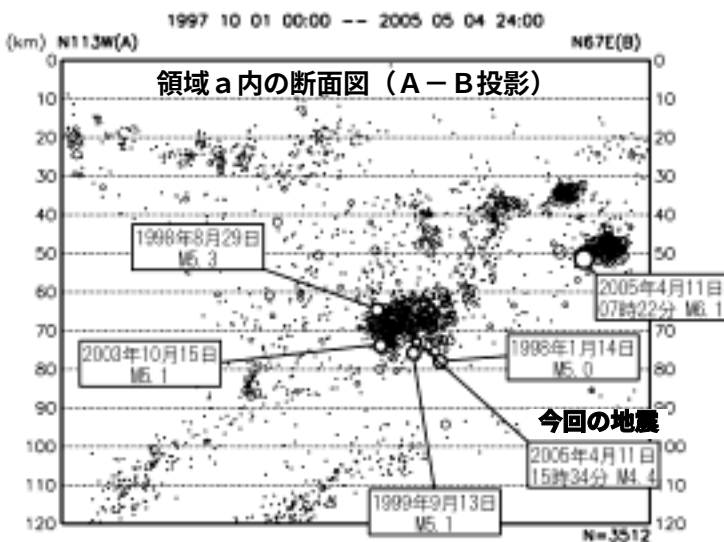
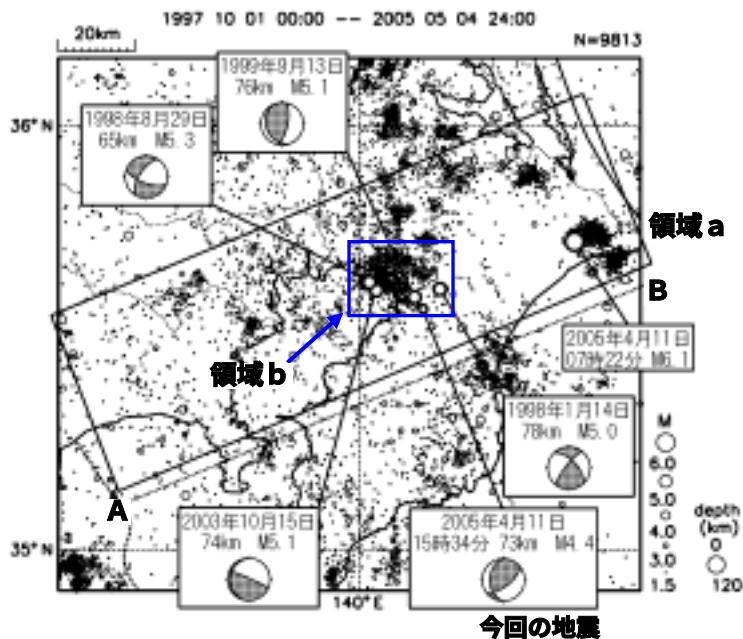


1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の付近（領域c）では、 $M 6.0$ 以上の地震が8回観測されている。 $M 7.0$ 以上は観測されていない。（**B**）

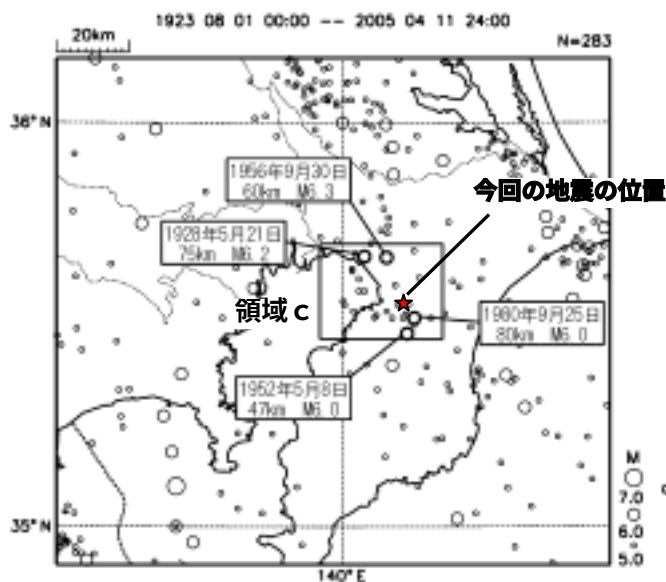


4月11日 千葉県北西部の地震

A 震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 1.5$)

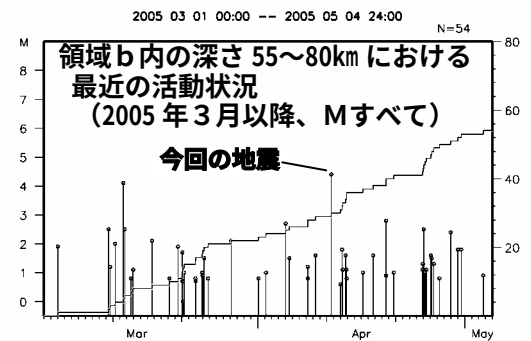
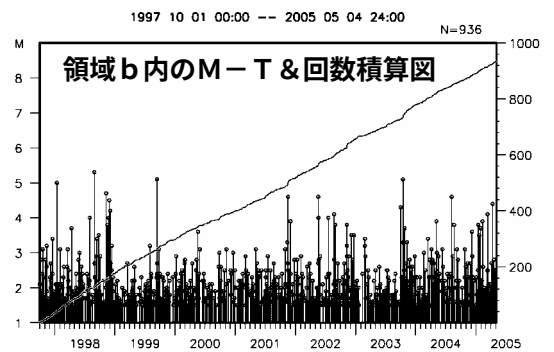


B 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 5.0$)

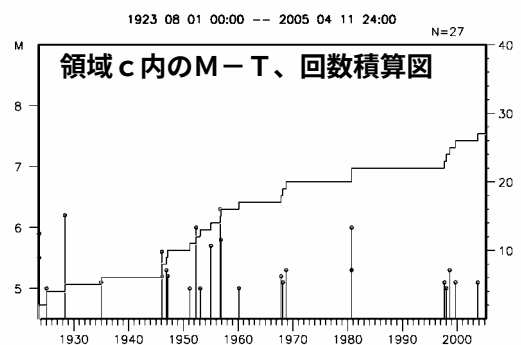


2005年4月11日15時34分に千葉県北西部の深さ73kmで $M 4.4$ (最大震度3)の地震が発生した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で太平洋プレートの沈みこみに伴う地震である。今回の地震付近には明瞭な地震活動域があり、ほぼ定常的に活動がみられる。今回の地震の後、活動に特段の変化はない。

(A)

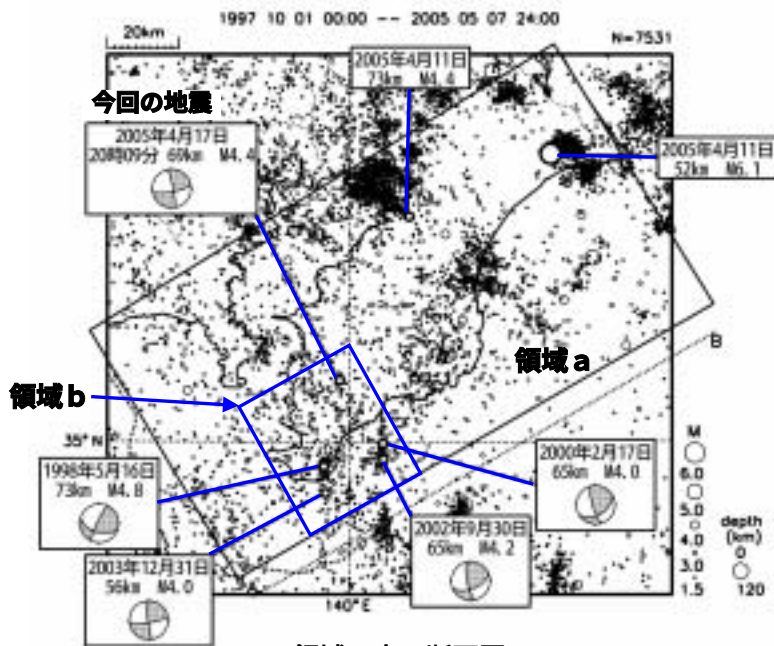


1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の付近では、 $M 6.0$ 以上の地震が4回観測されている。最近では1980年9月25日 ($M 6.0$)の地震以降、 $M 6.0$ 以上の地震は発生していない。(B)

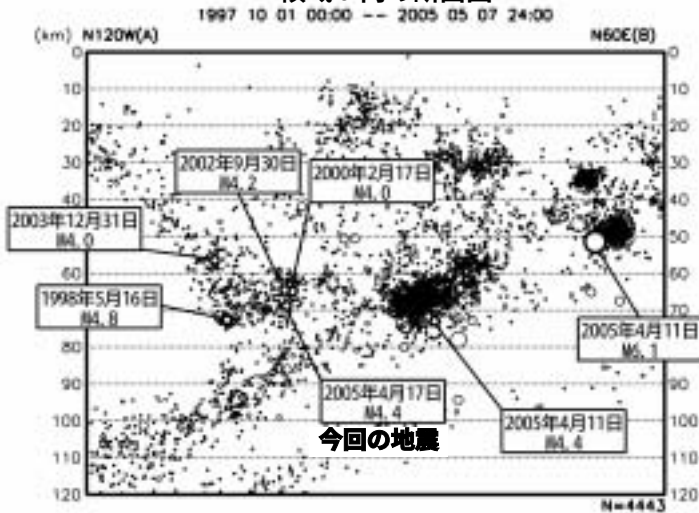


4月17日 千葉県南部の地震

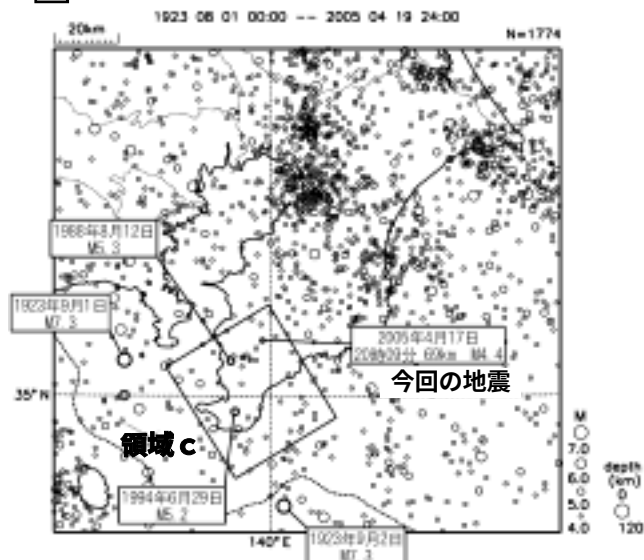
A 震央分布図 (2000 年以降、 $M \geq 1.5$)



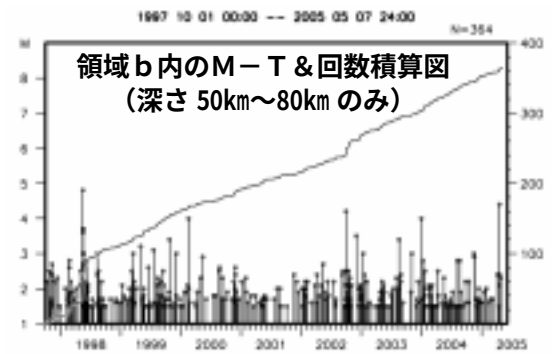
領域 a 内の断面図



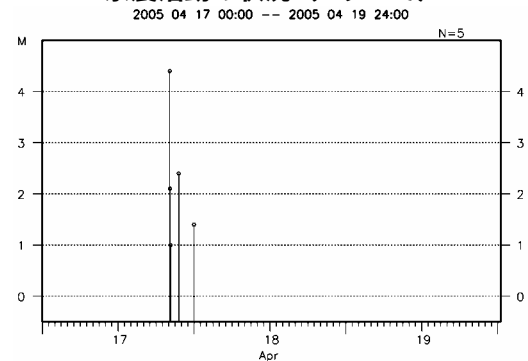
B 震央分布図 (1923 年 8 月以降、 $M \geq 4.0$)



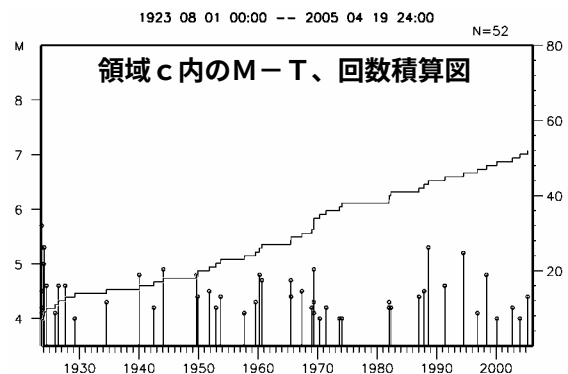
2005 年 4 月 17 日 20 時 09 分に千葉県南部の深さ 69km で M4.4 (最大震度 3) の地震が発生した。発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内部の地震と考えられる。余震は M2.5 未満が数回観測された。今回の地震付近 (領域 b) では M4 前後の地震が時々発生している。(A)



余震活動の状況 (M すべて)

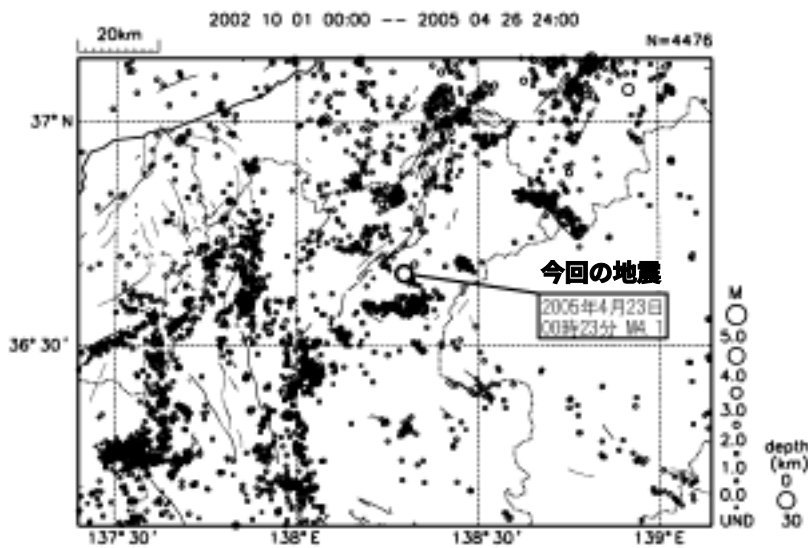


1923 年 8 月以降の活動をみると、今回の地震の付近 (領域 c) で M5.0 を超えた地震には、1923 年 9 月 1 日の関東地震の余震以外に 1988 年 8 月 12 日 (M5.3) と 1994 年 6 月 29 日 (M5.2) の地震がある。M6 クラスは観測されていない。(B)



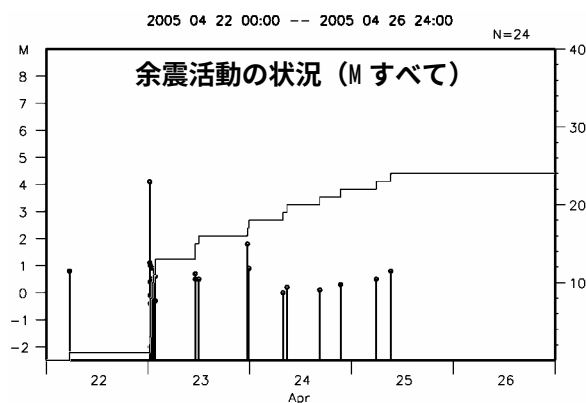
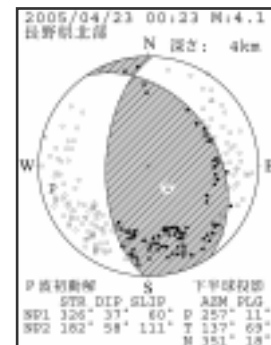
4月23日 長野県北部の地震

A 震央分布図（2002年10月以降、Mすべて）



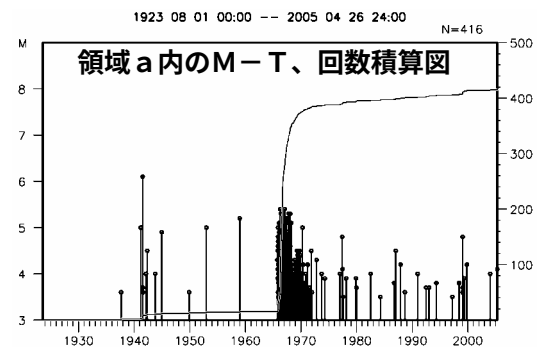
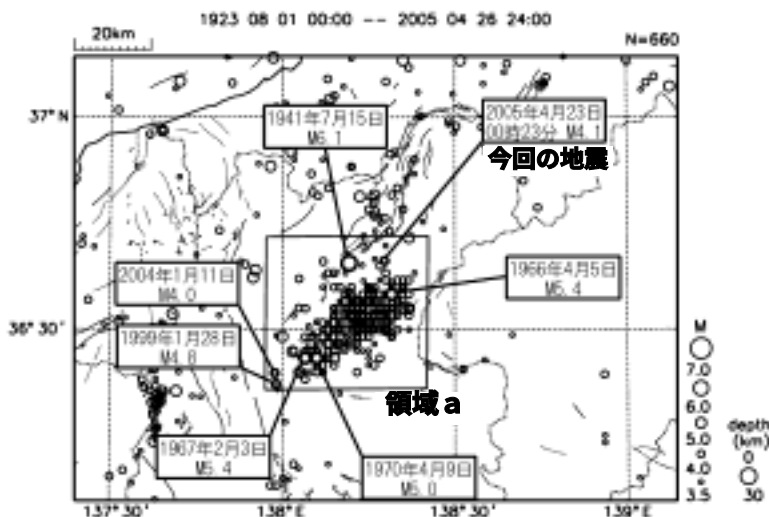
2005年4月23日00時23分に長野県北部の深さ4kmでM4.1（最大震度4）の地震が発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。この地震の後、小規模な余震が観測されたが、数日後にはほぼ収まった。（**A**）

今回の地震の発震機構

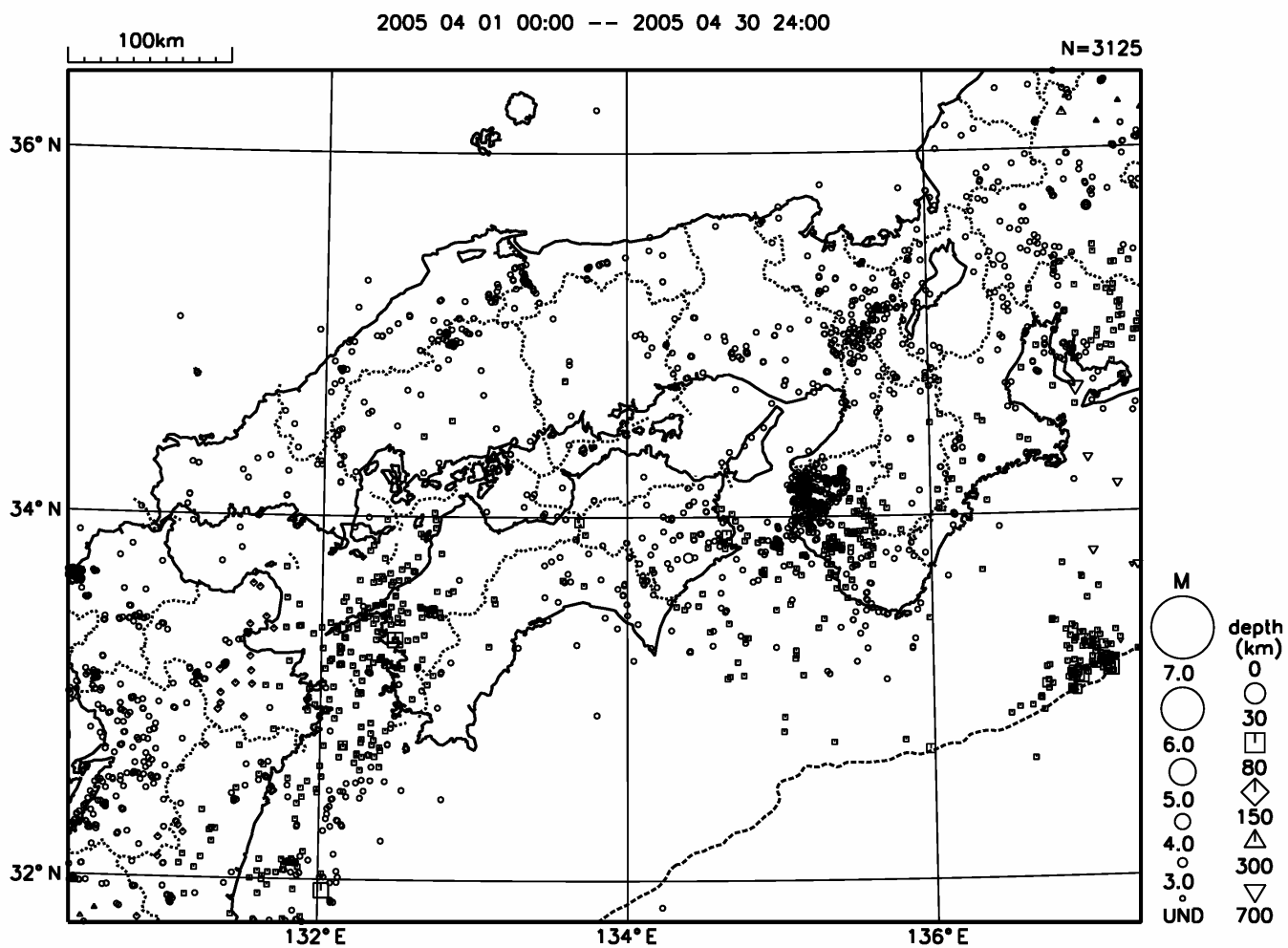


1923年以降の活動をみると、1965～1967年に活発となった松代群発地震（最大M5.4が2回）の活動が顕著であり、今回の地震はその活動領域の北端付近に位置している。1970年4月9日のM5.0の地震以降、この領域でM5.0を越える地震は発生していない。（**B**）

B 震央分布図（1923年8月以降、M $\geq$ 3.5）



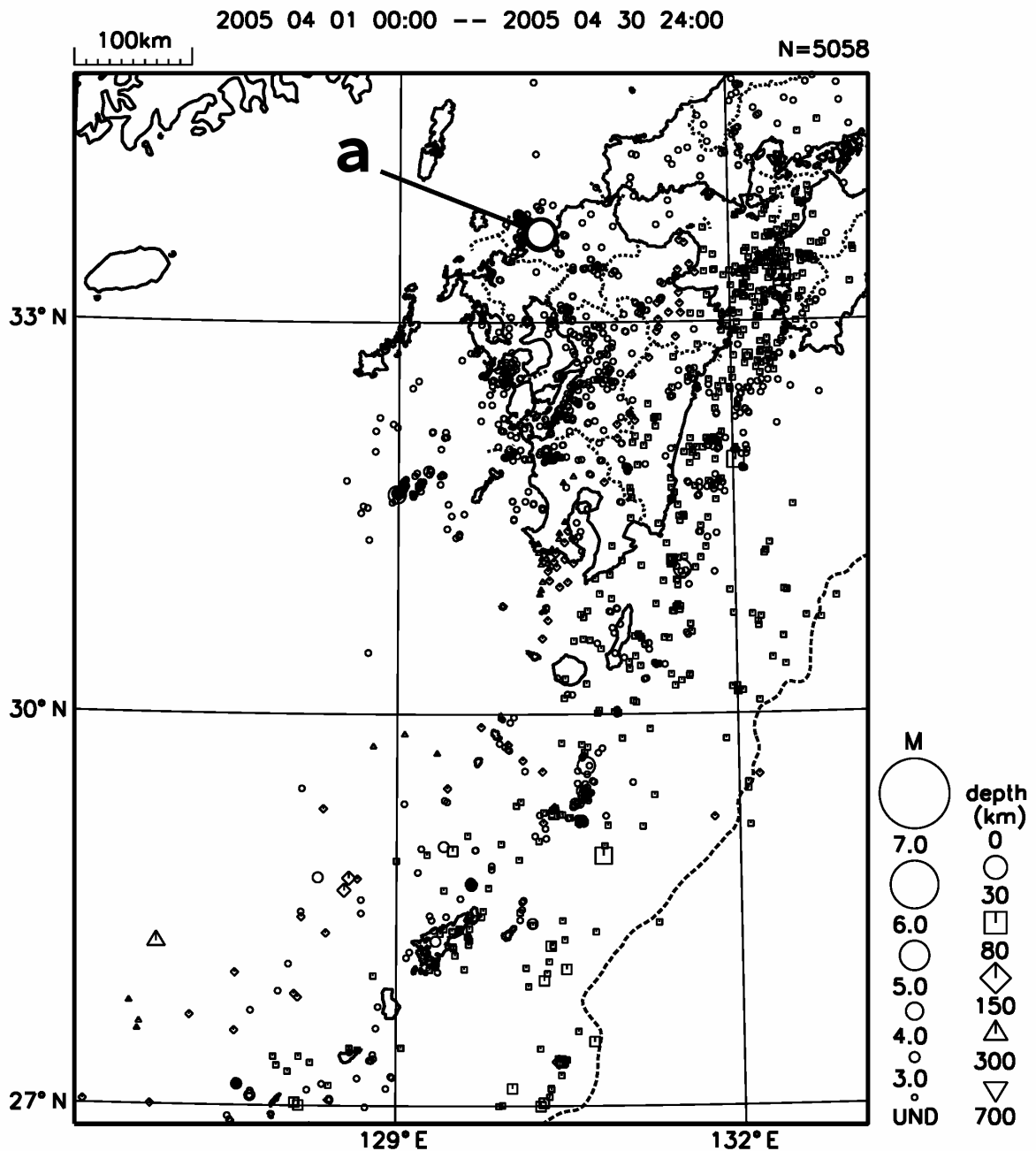
近畿・中国・四国地方



特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

九州地方



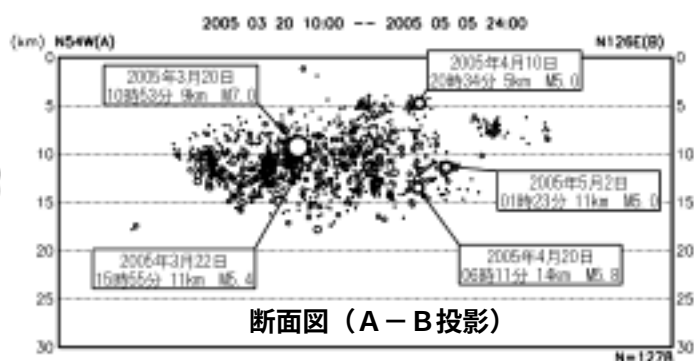
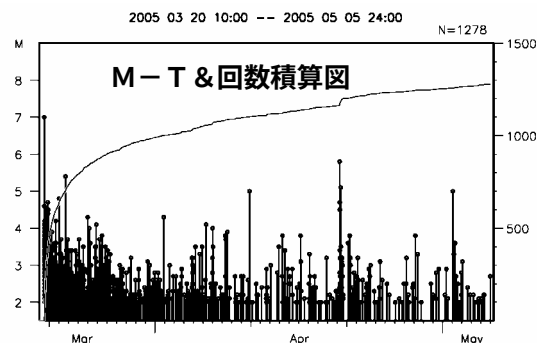
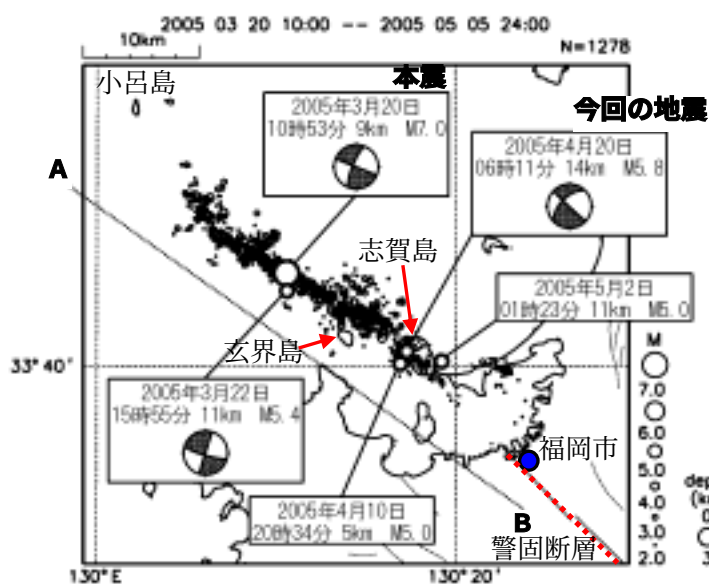
a) 福岡県西方沖の地震（3月20日、M7.0、最大震度6弱）の余震活動により、4月20日にM5.8（最大震度5強）の地震があった。そのほか、4月1日M4.3（最大震度4）、6日M4.1（同3）、7日M4.0（同4）、10日M5.0（同4）、20日M4.7（同4）、M4.5（同3）、M5.1（同4）の地震があった。

なお、期間外であるが、5月2日に福岡県西方沖でM5.0（最大震度4）の地震（福岡県西方沖の地震の余震）があった。

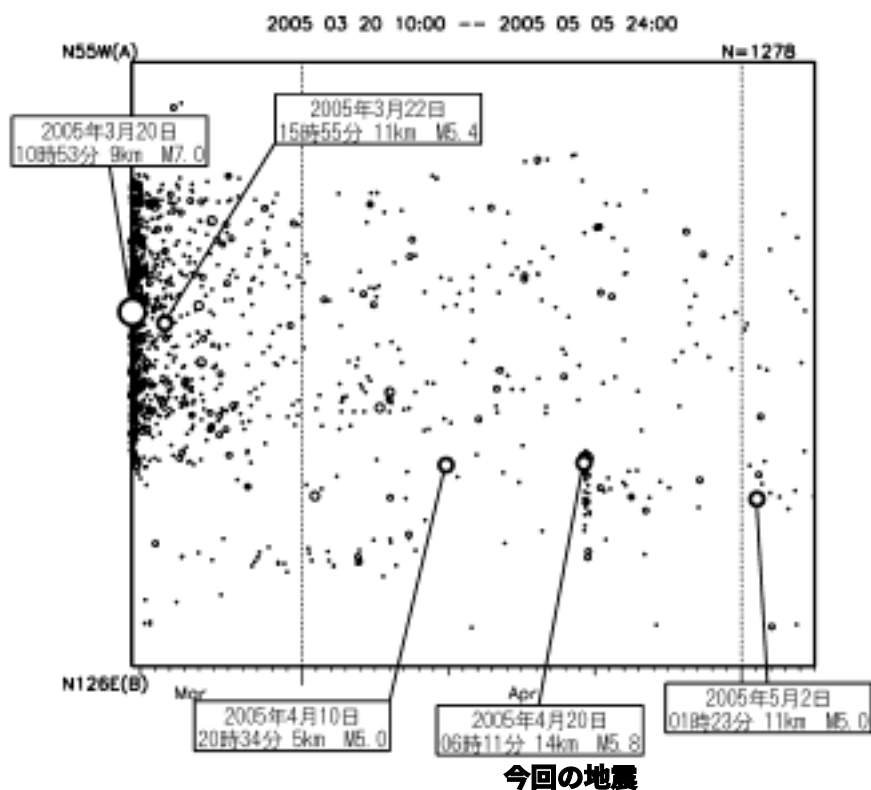
[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

福岡県西方沖の地震の余震活動（4月20日 M5.8の余震）

震央分布図（本震発生以降、 $M \geq 2.0$ ）



時空間分布図（A-B投影）



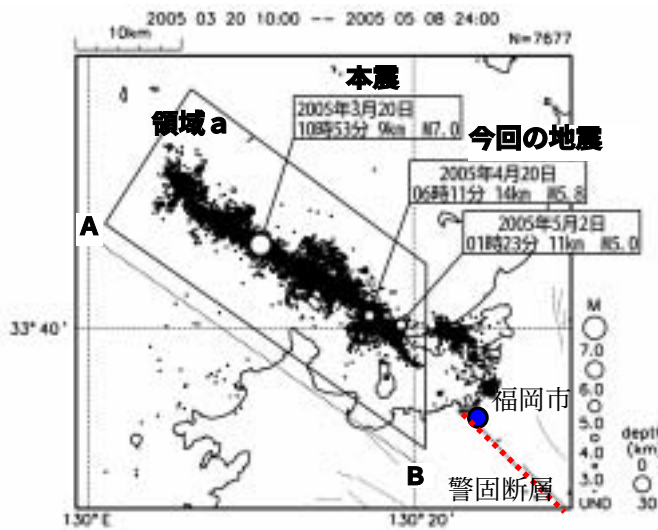
2005年4月20日06時11分に福岡県西方沖の深さ14kmでM5.8（最大震度5強）の地震（2005年3月20日のM7.0の地震の余震）が発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、これまでの地震とほぼ同様である。

この地震は本震発生以降、これまでの最大の余震で、震央は北西-南東方向に伸びる余震域の南東端付近（志賀島付近）に位置している。今回の地震の近傍では、4月10日にもM5.0の余震（深さ5km）が発生しているが、今回の地震はそれよりもやや深いところで発生した。

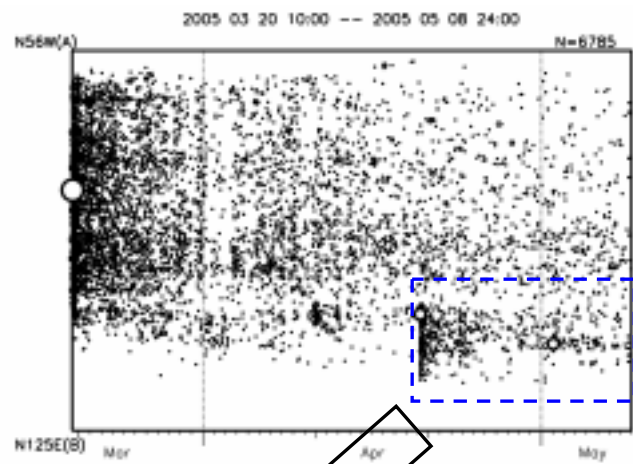
この地震の後、二次的な余震が発生し、活動域は博多湾方向に伸びた。その後4月末までに活動は収まりつつあったが、5月2日にも志賀島付近でM5.0の地震が発生した。

福岡県西方沖の地震の余震活動 (4月20日 M5.8の余震の二次的な余震活動)

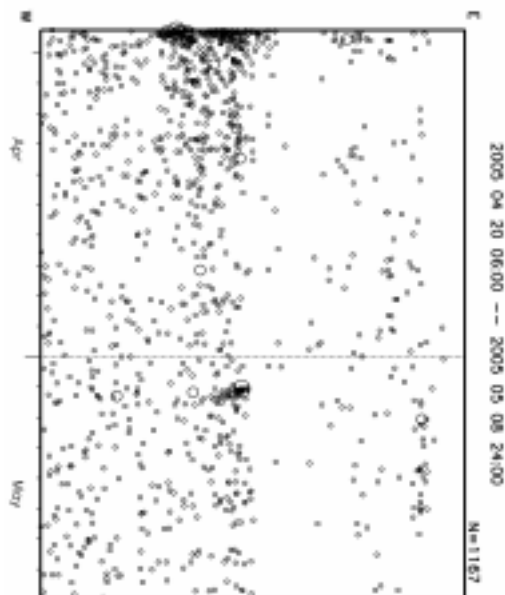
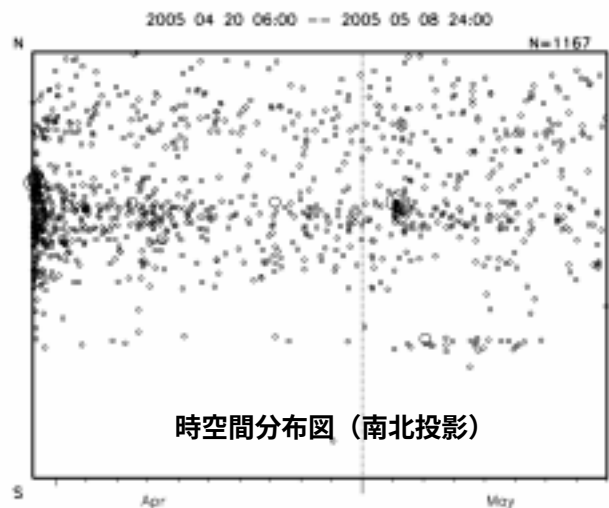
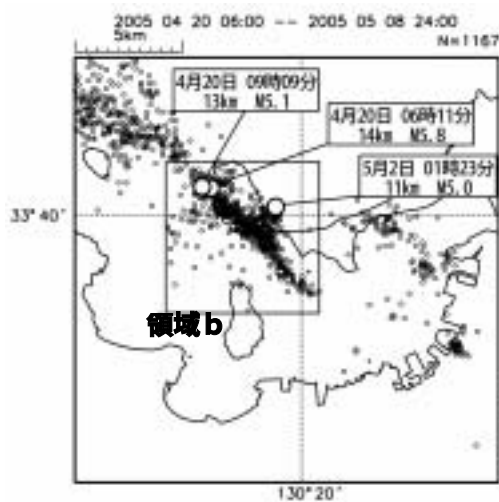
震央分布図(本震発生以降、Mすべて)



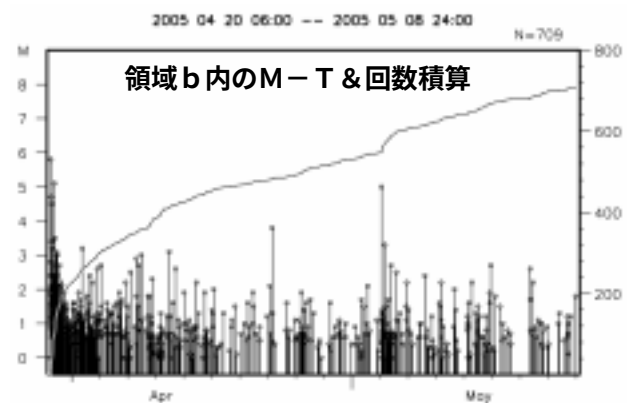
領域a内の時空間分布図(A-B投影)



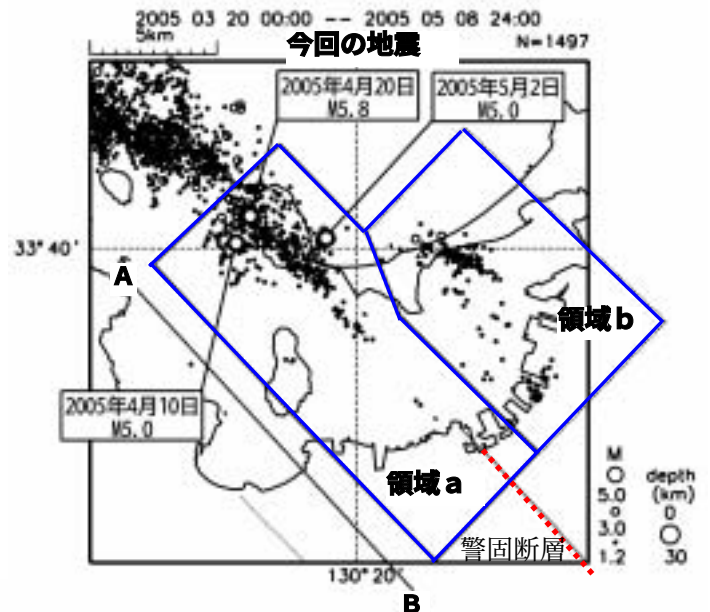
4月20日06時以降の活動状況



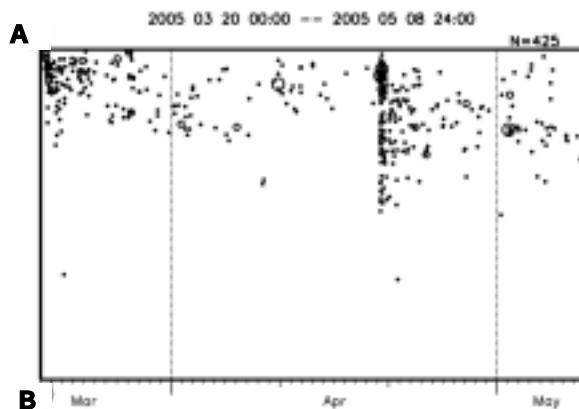
時空間分布図(東西投影)



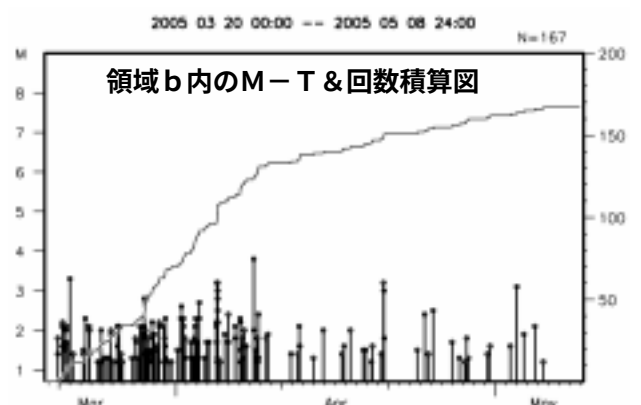
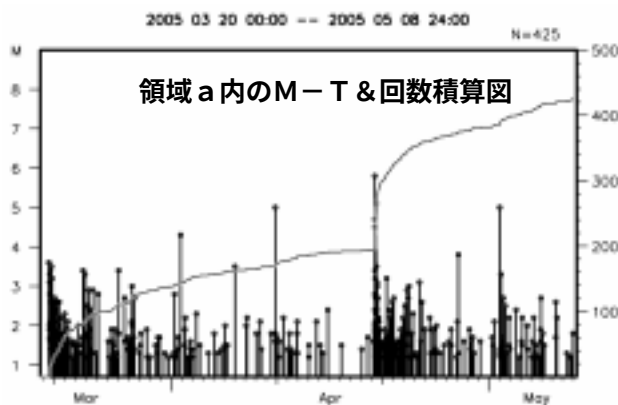
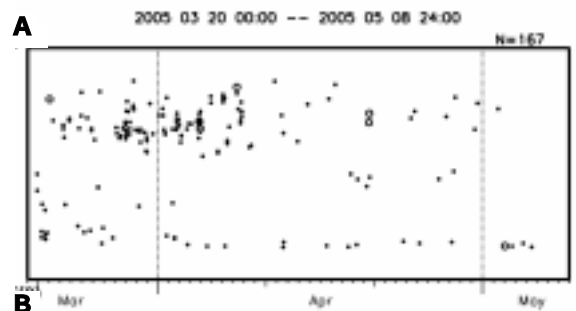
福岡県西方沖の地震の余震活動 (博多湾付近の活動 $M \geq 1.2$)

震央分布図 (2005 年 3 月 20 日以降、 $M \geq 1.2$)

領域 a 内の時空間分布図 (A-B 投影)



領域b内の時空間分布図 (A-B 投影)



福岡県西方沖の地震 (M7.0) の余震活動 ($M \geq 1.2$) について、博多湾周辺の活動に限定して推移を示す。

今回、M5.8の余震が発生した志賀島（しかのしま）付近（領域a）では、4月20日06時11分の地震（M5.8）発生以前は、4月10日（M5.0）の影響も小さく、全体としては順調な減衰を示していた。M5.8の地震以降は、活発な2次的な余震活動を伴った。5月2日にも志賀島付近でM5.0の地震が発生したが、全体の活動は減衰してきている。

海の中道から博多湾にかけての活動（領域b）は、4月9日頃から急激に地震の数が減少した。M5.8の余震の後、20日12時23分（M3.2）と13時28分（M3.0）にM3.0以上の地震が2回発生したが、活動は特段活発化しなかった。

平成17年5月10日12時現在
気象庁地震火山部

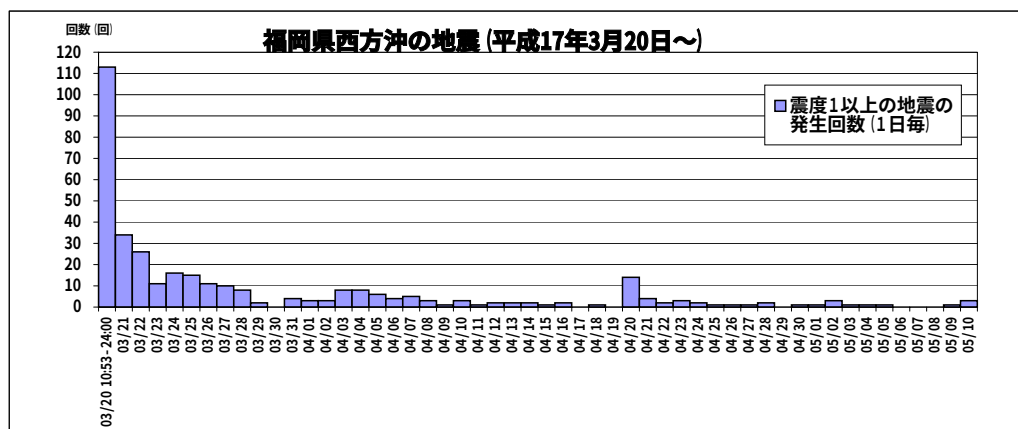
福岡県西方沖の地震 (平成17年3月20日～)

震度1以上を観測した地震の最大震度別回数表 (本震を含む)
*この資料は速報値であり、後日の調査で変更されることがあります。

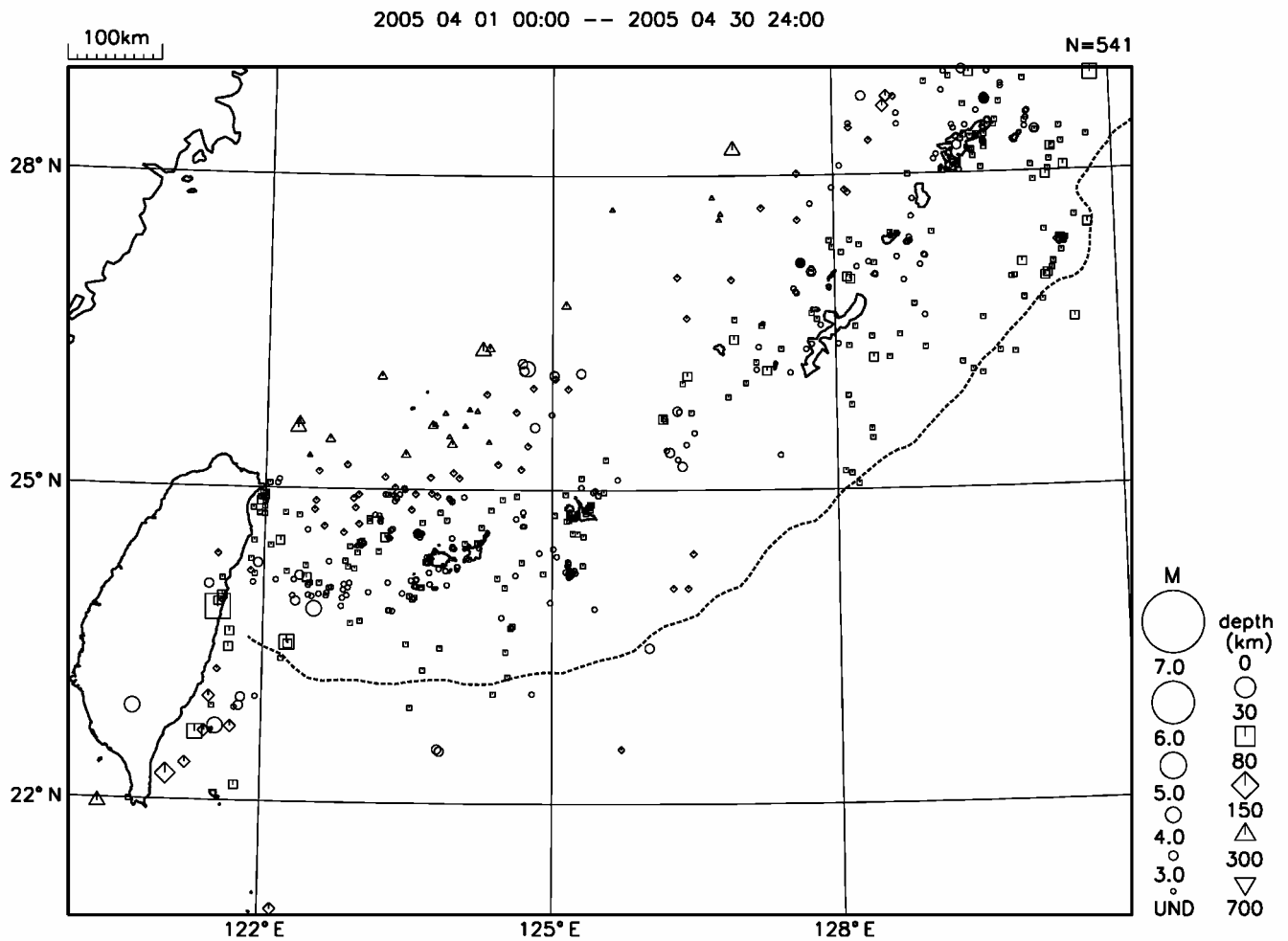
期 間	最大震度別回数										震度1以上を 観測した回数		福岡西区玄界島のみで 震度1以上を観測した回数 (03/21 18時より観測開始)
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7		回数	累計	
03/20 10:53-24:00	66	40	6				1				113	113	
03/21	26	6	2								34	147	玄界島 7回 (2:1回、1:6回)
03/22	15	10		1							26	173	玄界島 14回 (2:6回、1:8回)
03/23	8	1	2								11	184	玄界島 9回 (2:1回、1:8回)
03/24	8	6	2								16	200	玄界島 8回 (2:2回、1:6回)
03/25	9	5	1								15	215	玄界島 6回 (2:2回、1:4回)
03/26	4	7									11	226	玄界島 6回 (2:2回、1:4回)
03/27	6	3	1								10	236	玄界島 6回 (2:1回、1:5回)
03/28	6	2									8	244	玄界島 3回 (2:1回、1:2回)
03/29	1	1									2	246	
03/30											0	246	
03/31	3	1									4	250	玄界島 4回 (2:1回、1:3回)
04/01	2			1							3	253	
04/02	3										3	256	玄界島 2回 (1:2回)
04/03	5	1	2								8	264	玄界島 6回 (3:2回、2:1回、1:3回)
04/04	4	4									8	272	玄界島 5回 (2:2回、1:3回)
04/05	4	2									6	278	玄界島 4回 (1:4回)
04/06		1	3								4	282	玄界島 1回 (2:1回)
04/07	1	3		1							5	287	玄界島 3回 (2:2回、1:1回)
04/08		2	1								3	290	
04/09		1									1	291	玄界島 1回 (2:1回)
04/10	2			1							3	294	玄界島 2回 (1:2回)
04/11	1										1	295	玄界島 1回 (1:1回)
04/12	2										2	297	玄界島 2回 (1:2回)
04/13	1	1									2	299	
04/14		1	1								2	301	
04/15	1										1	302	
04/16	1	1									2	304	
04/17											0	304	
04/18		1									1	305	
04/19											0	305	
04/20	6	3	2	2		1					14	319	玄界島 1回 (1:1回)
04/21	1	3									4	323	玄界島 1回 (1:1回)
04/22	2										2	325	
04/23	3										3	328	玄界島 1回 (1:1回)
04/24	1	1									2	330	
04/25	1										1	331	
04/26	1										1	332	玄界島 1回 (1:1回)
04/27	1										1	333	玄界島 1回 (1:1回)
04/28	1	1									2	335	玄界島 1回 (1:1回)
04/29											0	335	
04/30	1										1	336	玄界島 1回 (1:1回)
05/01	1										1	337	玄界島 1回 (1:1回)
05/02	1	1		1							3	340	
05/03		1									1	341	
05/04	1										1	342	
05/05	1										1	343	玄界島 1回 (1:1回)
05/06											0	343	
05/07											0	343	
05/08											0	343	
05/09	1										1	344	
計	202	110	23	7	0	1	1	0	0		344	344	

H17.05/10

時間帯	最大震度別回数										震度1以上を 観測した回数		福岡西区玄界島のみで 震度1以上を観測した回数
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7		回数	累計	
00:00 - 01:00											0	344	
01:00 - 02:00	1										1	345	玄界島 1回 (1:1回)
02:00 - 03:00											0	345	
03:00 - 04:00											0	345	
04:00 - 05:00											0	345	
05:00 - 06:00											0	345	
06:00 - 07:00											0	345	
07:00 - 08:00											0	345	
08:00 - 09:00											0	345	
09:00 - 10:00											0	345	
10:00 - 11:00	1										1	346	玄界島 1回 (1:1回)
11:00 - 12:00	1										1	347	
日累計	3	0	0	0	0	0	0	0	0		3	-	
総計	205	110	23	7	0	1	1	0	0		-	347	



沖縄地方

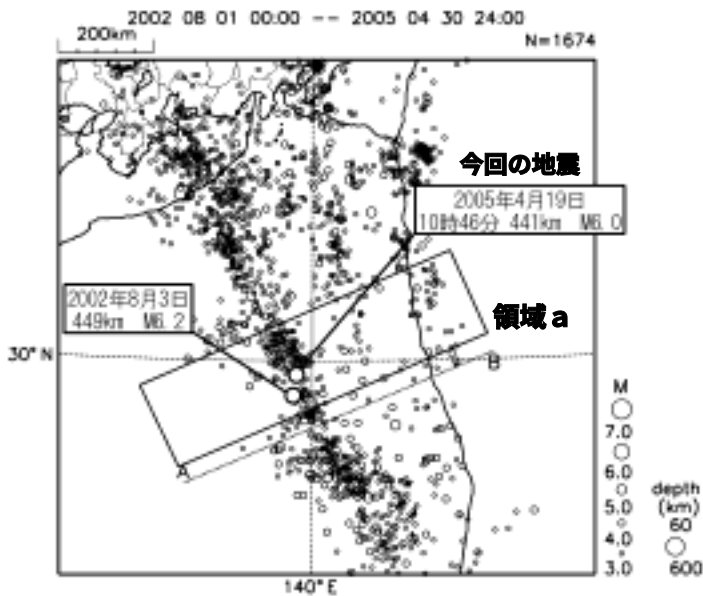


特に目立った活動はなかった。

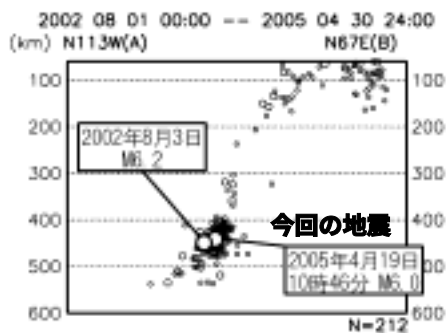
[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

4月19日 鳥島近海の地震

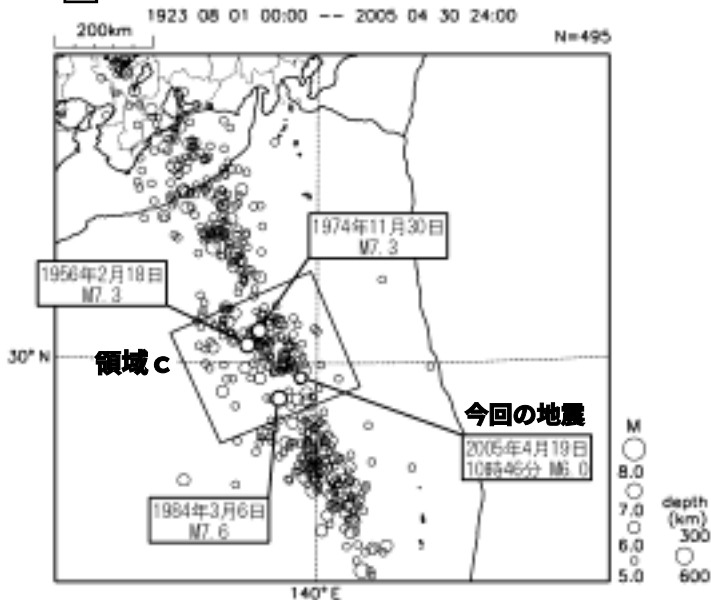
A 震央分布図（2002年8月以降、 $M \geq 3.0$ ）



領域a内の断面図（A-B投影）



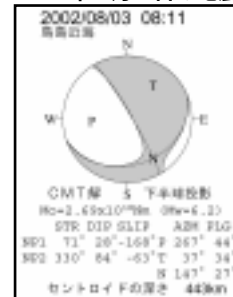
B 震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 5.0$ ）



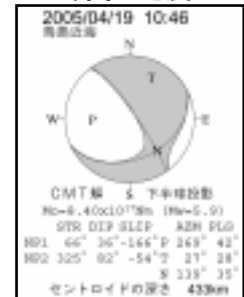
2005年4月19日10時46分に鳥島近海の深さ441kmでM6.0（最大震度2）の地震が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は、太平洋プレートの沈み込む方向（西下がり）に圧力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。この付近では、最近では2002年8月4日にM6.2の地震が発生しており、今回の地震と発震機構はほぼ同じ型である。（**A**）

発震機構（CMT解）

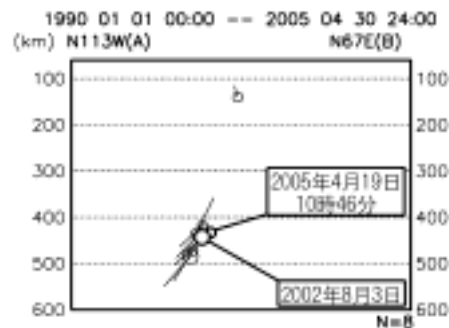
2002年8月3日の地震



今回の地震

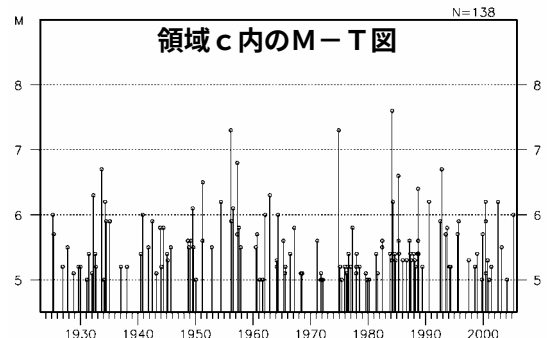


領域a内のP軸分布断面図
（1990年以降、A-B投影）



1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の付近では、M7.0以上の地震が3回観測されており、最大は1984年3月6日のM7.6の地震である。（**B**）

1923 08 01 00:00 -- 2005 04 30 24:00



●東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動

[概況]

とくに目立った活動はなかった。

[地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果]

4月25日に気象庁において第229回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会(定例会)を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した(図3、図4)。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖直下で通常より活動レベルの低い状態が続いていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

地殻変動については、昨年9月5日の東海道沖(紀伊半島南東沖)のM7.4の地震以降、この地震による余効変動と見られる動きが観測されていました。最近ではこの地震以前の状態に戻りつつあり、プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる長期的な地殻変動が継続していると考えられます。

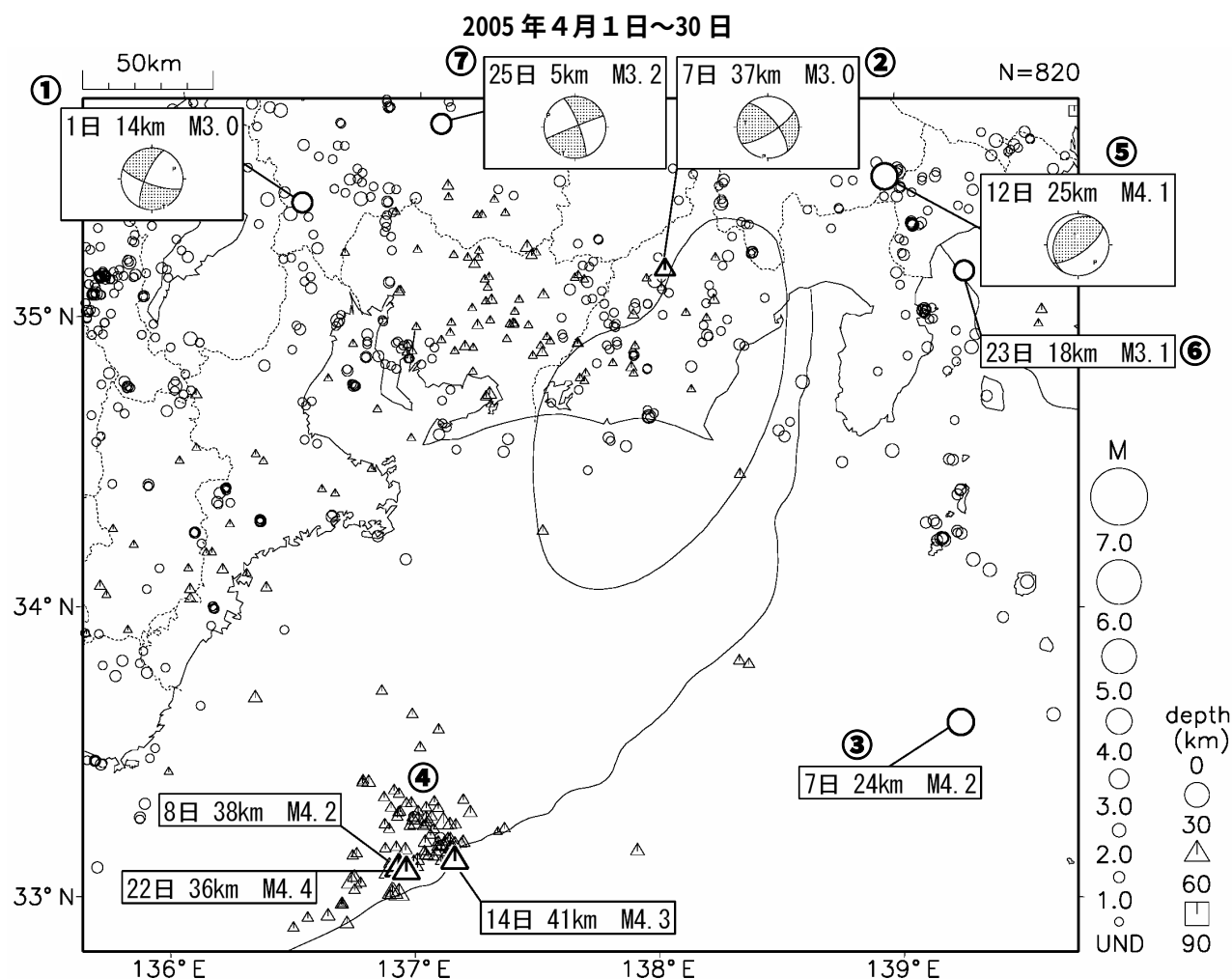


図1 震央分布図(図中のなすび型の領域は東海地震の想定震源域。M3.0以上の地震(東海道沖はM4.0以上)に「日、深さ、M」を付けた。すぐ下の図はP波初動による発震機構(下半球投影))

- ① 1日23時30分、岐阜県美濃中西部の深さ14kmでM3.0の地震があり、最大震度1を観測した。発震機構は、東北東-西南西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。地殻内の地震と考えられる。
- ② 7日06時41分、静岡県西部の深さ37kmでM3.0の地震があった。発震機構は、西北西-東南東に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。フィリピン海プレート内部の地震と考えられる。この付近では2001年4月3日に深さ30km

で M5.3 のフィリピン海プレート内の地震があり、最大震度 5 強を観測した（東海地域の地震・地殻活動に関する情報（解説情報第 3 号）発表^{注)}）。

- ③ 7 日 21 時 23 分、八丈島近海の深さ 24km で M4.2 の地震があった。
- ④ 9 月 5 日に東海道沖の深さ 44km で発生した M7.4 の地震の余震活動は、引き続き順調に減衰している。今期間はマグニチュード 4 以上の余震が 3 回発生し、最大は 22 日の M4.4（最大震度 1）であった。
- ⑤ 12 日 13 時 09 分、山梨県東部の深さ 25km で M4.1 の地震があり、最大震度 2 を観測した。

発震機構は、北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。フィリピン海プレートと陸のプレートが衝突しているところで発生した地震と考えられる。（次ページを参照）

- ⑥ 23 日 07 時 23 分、相模湾の深さ 18km で M3.1 の地震があり、最大震度 1 を観測した。
- ⑦ 25 日 18 時 13 分、岐阜県飛騨地方の深さ 5km で M3.2 の地震があり、最大震度 2 を観測した。発震機構は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。地殻内の地震と考えられる。

注：本文中の番号は、図 1 中の数字に対応する。

注) 2004 年 1 月 5 日より、東海地震の予知に関する情報体系を見直し、新たな情報体系に移行した（詳細は「平成 15 年 12 月 地震・火山月報（防災編）」を参照）。2001 年 4 月 3 日の地震の際に発表した「解説情報」は現在の「東海地震観測情報」に該当する。

[東海地域の地震活動の頁で使われる用語]

・「想定震源域」（図 1）と「固着域」（図 3）

東海地震発生時には、「固着域」（プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域）あるいはその周辺の一部からゆっくりしたずれ（前兆すべり）が始まり、最終的には「想定震源域」全体が破壊すると考えられている。

・「クラスタ除去」（図 3，4）

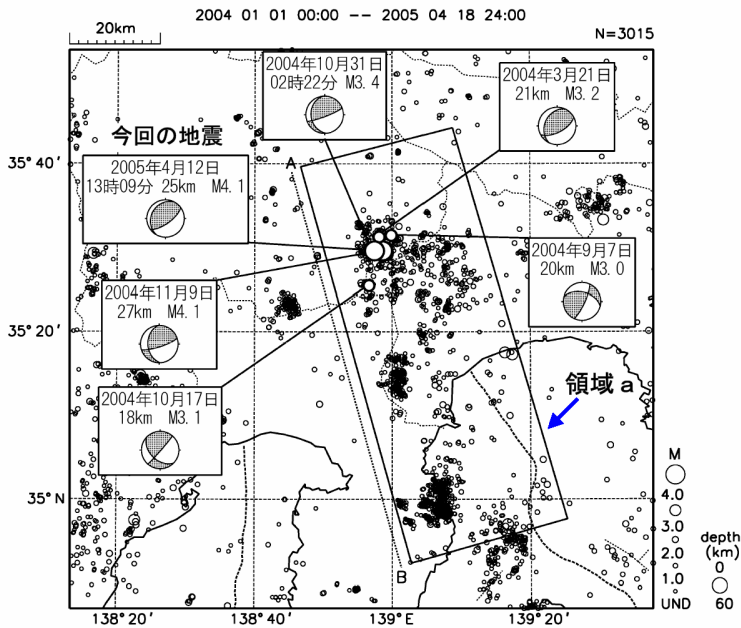
地震は時間空間的に群（クラスタ：cluster）をなして起きることが多くある。「本震とその後に起きる余震」、「群発地震」などが典型的な群（クラスタ）で、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。震央距離が 3 km 以内、発生時間差が 7 日以内の地震をクラスタと見なし、最大地震で代表させている。

・東海地域の地震活動

大規模な地震から国民の生命・財産を保護することを目的として、昭和 53 年（1978 年）12 月に施行された「大規模地震対策特別措置法」では、大規模な地震の発生のおそれがあり、その地震によって大きな被害が予想されるような地域をあらかじめ「地震防災対策強化地域（以下、「強化地域」という。）として指定し、地震予知のための観測施設の整備を強化し、あらかじめ地震防災に関する計画をたてる等、各種の措置を講じることとしている。強化地域は平成 14 年（2002 年）4 月に見直しが行われ、現在、静岡県全域と東京都、神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知及び三重の各県にまたがる 216 市町村（平成 17 年 4 月現在）が強化地域に指定されている。強化地域では、マグニチュード 8 クラスと想定されている大地震（東海地震）が起こった場合、震度 6 弱以上（一部地域では震度 5 強程度）になり、沿岸では大津波の来襲が予想されている。気象庁では東海地震の直前の前兆現象を捕らえるため、地震、地殻変動等の観測データを常時監視している。

4月12日 山梨県東部の地震

震央分布図（2004年1月以降、Mすべて）

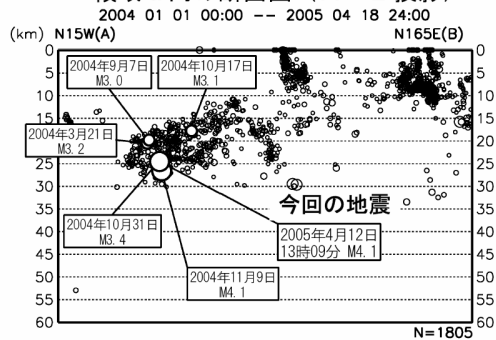


2005年4月12日13時09分に山梨県東部の深さ25kmでM4.1（最大震度2）の地震が発生した。発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートが衝突しているところで発生した地震と考えられる。圧力軸の方向はこの付近の地震によく見られるタイプである。余震活動は半日程度でほぼ収まった。

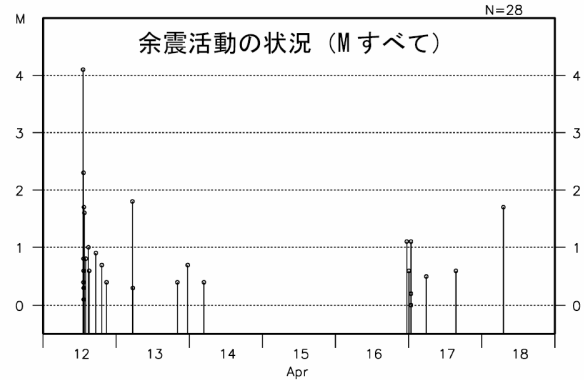
この付近は明瞭な地震活動域の一部であり、定常的な活動がみられる。最近では、2004年11月9日にM4.1（最大震度2）の地震が発生している。

1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の付近では、1931年9月16日のM6.3の地震が最大である。

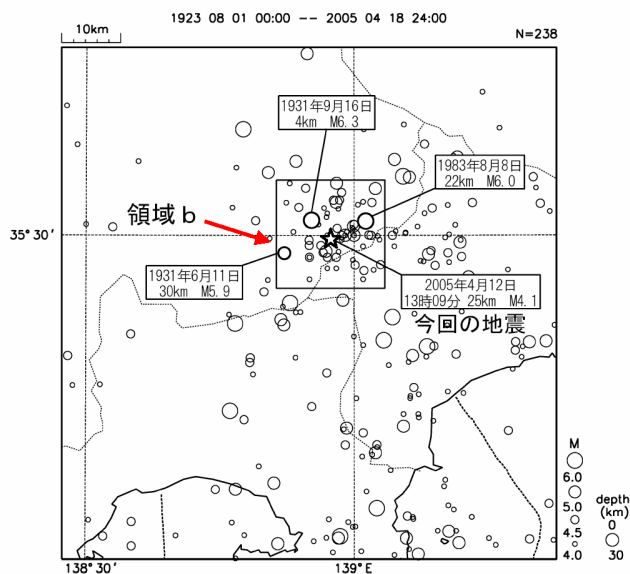
領域a内の断面図（A－B投影）



2005 04 12 00:00 -- 2005 04 18 24:00



震央分布図（1923年8月以降、M≥4.0）



1923 08 01 00:00 -- 2005 04 18 24:00

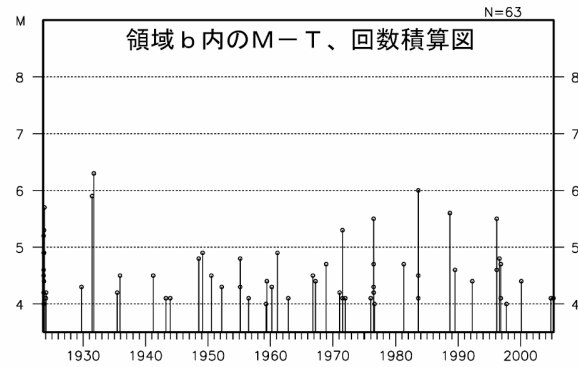


図2 山梨県東部の地震

東海地域の地震活動指数

(クラスタを除いた地震回数による)

2005年4月20日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	4	4	3	4	4	2	3	3
短期地震回数 (平均)	5 (6.18)	6 (5.83)	2 (4.37)	13 (12.63)	1 (2.38)	3 (6.08)	2 (3.70)	4 (6.18)
中期活動指数	4	4	4	2	4	1	1	3
中期地震回数 (平均)	18 (18.53)	17 (17.50)	12 (13.11)	30 (37.90)	4 (4.76)	6 (12.15)	2 (7.39)	9 (12.37)

* Mしきい値：

M $\geq$ 1.1：固着域、愛知県、浜名湖、M $\geq$ 1.4：駿河湾

* クラスタ除去：

震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

$\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$ ：固着域、愛知県、浜名湖

$\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$ ：駿河湾

* 対象期間：

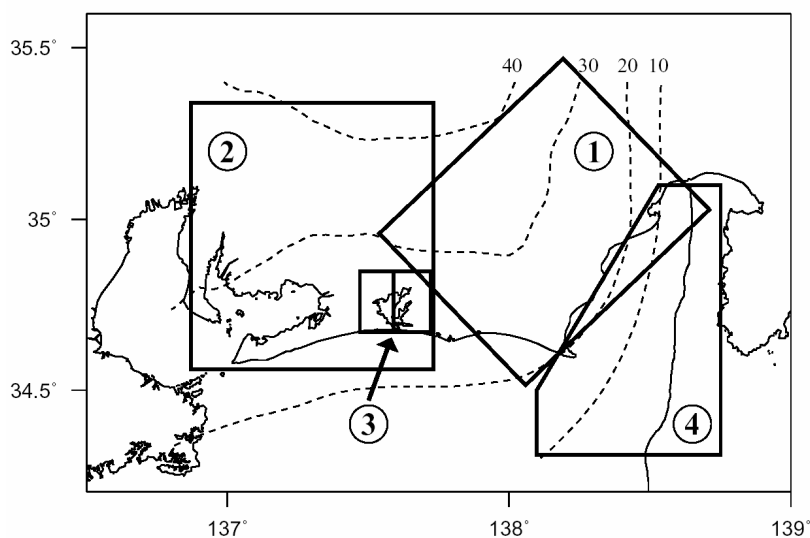
短期：30日間（固着域、愛知県）、90日間（浜名湖、駿河湾）

中期：90日間（固着域、愛知県）、180日間（浜名湖、駿河湾）

* 基準期間：

1997年—2001年（5年間）：固着域、愛知県、1998年—2000年（3年間）：浜名湖

1991年—2000年（10年間）：駿河湾



* プレート境界の等深線を波線で示す。

地震回数の指数化

指数	確率 (%)	地震数
8	1	多
7	4	↑
6	10	
5	15	
4	40	平常
3	15	
2	10	
1	4	↓
0	1	少

図3 東海地域の地震活動指数

浜名湖東側・全域では活動指数の低い状態が継続し、愛知県のフィリピン海プレート内中期もやや低かった。それ以外の地域は引き続き平常の活動であった。

浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2005/ 4/20 M ≥ 1.1 * クラスタ除去したデータ

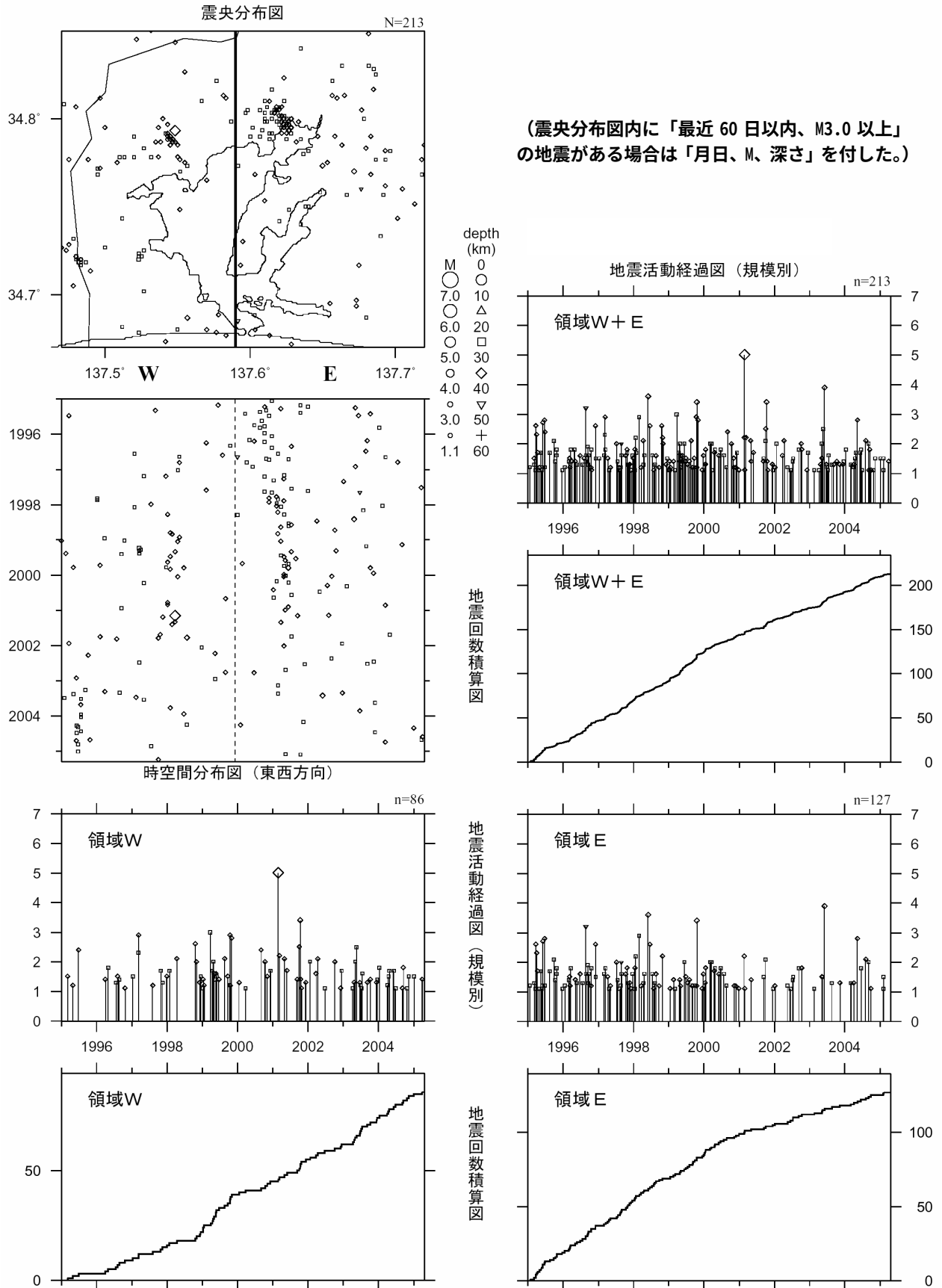


図4 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動

領域Eでは 2000 年終わりごろからの活動の低下が継続しており、領域Wでは 2003 年半ばから静岡・愛知県境付近の活動が続いている。

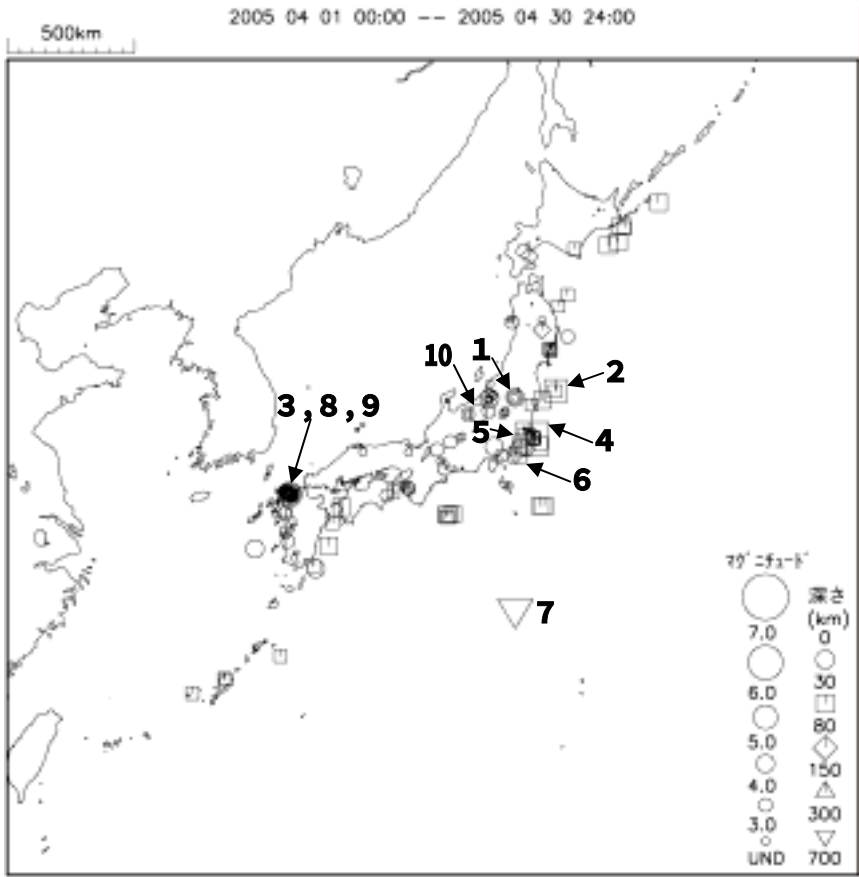


図1 震度1以上を観測した地震
(図中の番号は、表のNo に対応する地震)

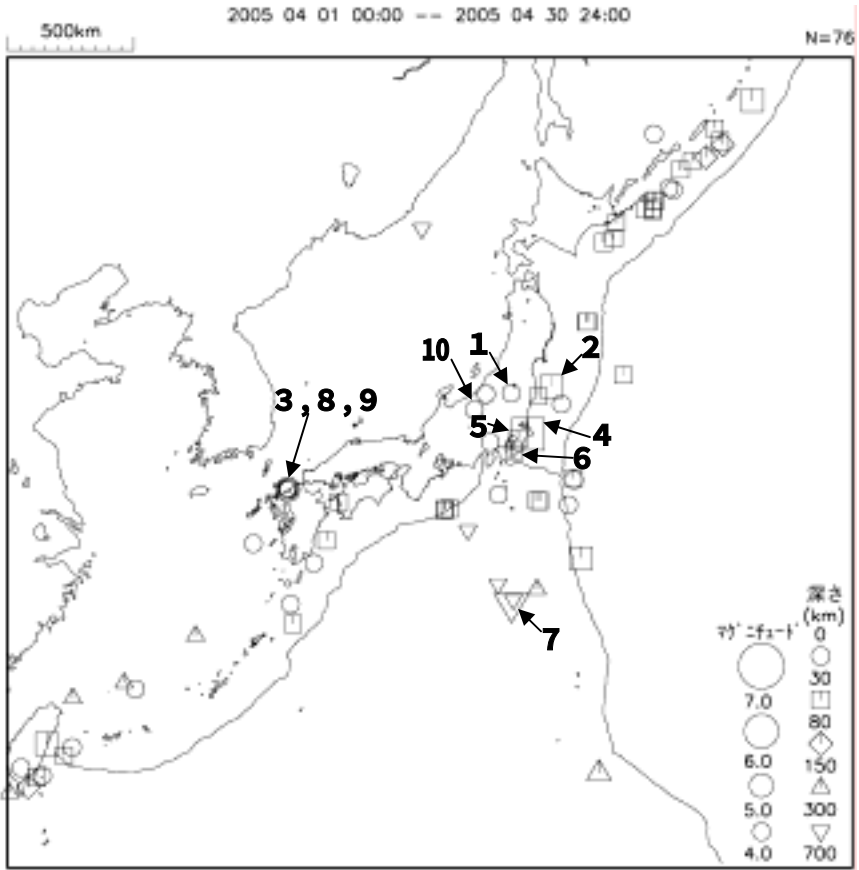


図2 M4.0以上の地震
(図中の番号は、表のNo に対応する地震)

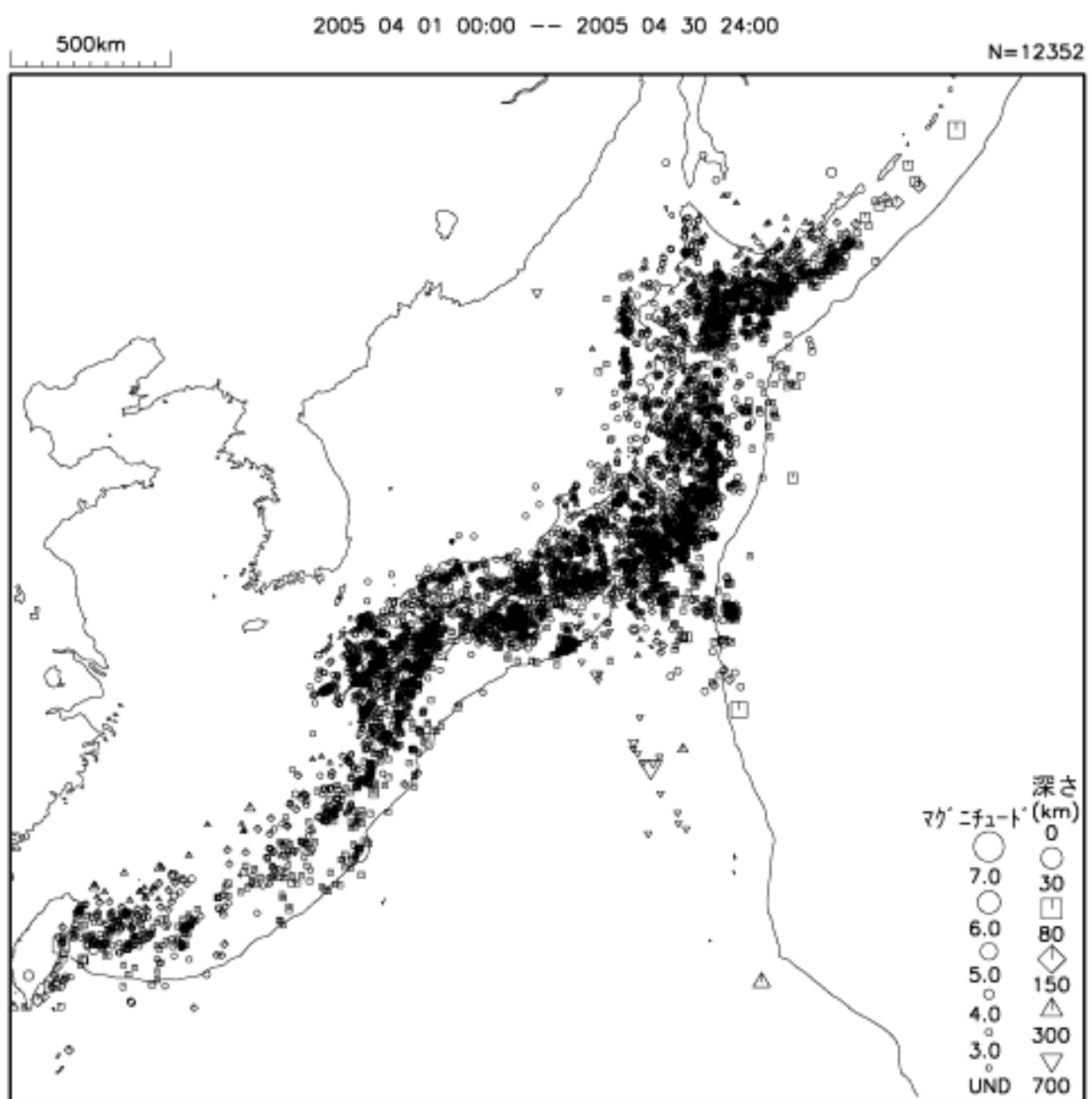


図3 気象庁が震源を決定した日本付近の2005年4月の地震の震央分布

●表 1
過去1年間に震度1以上が観測された地震の最大震度別の月別回数
＜平成16年（2004年）4月～平成17年（2005年）4月＞

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
2005年4月	119	53	13	7		2				194	11日千葉県北東部（震度5強） 福岡県西方沖の地震の余震 （震度5強：1回、 震度4：5回、震度3：9回、 震度2：26回、震度1：45回）
2005年3月	231	129	25	3			1			389	20日 福岡県西方沖（震度6弱：1回、 震度4：1回、震度3：14回、 震度2：82回、震度1：152回） 新潟県中越地震の余震 （震度3：4回、震度2：7回、 震度1：5回）
2005年2月	65	26	8	2	1					102	16日 茨城県南部（震度5弱） 新潟県中越地震の余震 （震度3：2回、震度2：5回、 震度1：7回）
2005年1月	86	38	6	5		1				136	18日 釧路沖（震度5強：1回、 震度2：5回、震度1：6回） 新潟県中越地震の余震 （震度4：2回、震度3：1回、 震度2：12回、震度1：7回）
2004年12月	116	54	18	2	1	2				193	6日 釧路沖（震度5強：1回、 震度3：2回、震度2：5回、 震度1：13回） 14日 留萌支庁南部（震度5強） 新潟県中越地震（震度5弱：1回、 震度4：1回、震度3：3回、 震度2：17回、震度1：33回）
2004年11月	206	106	32	15	1	3				363	29日 釧路沖（震度5強：1回、 震度4：1回、震度3：4回、 震度2：8回、震度1：8回） 新潟県中越地震の余震 （震度5強：2回、震度5弱：1回、 震度4：10回、震度3：19回、 震度2：65回、震度1：128回）
2004年10月	360	207	91	30	6	6	2	2	1	705	6日 茨城県南部（震度5弱） 15日 与那国島近海（震度5弱） 新潟県中越地震（震度7：1回、 震度6強：2回、震度6弱：2回、 震度5強：6回、震度5弱：4回、 震度4：30回、震度3：78回、 震度2：173回、震度1：304回）
2004年9月	87	31	12	2	2					134	紀伊半島沖・東海道沖の地震 （震度5弱：2回、震度4：1回、 震度3：2回、震度2：10回、 震度1：39回）
2004年8月	69	16	3	2	1					91	10日 岩手県沖（震度5弱：1回）
2004年7月	65	23	11	4						103	
2004年6月	79	26	8	1						114	
2004年5月	70	46	6	2						124	
2004年4月	70	28	12	3						113	
2005年計	501	246	52	17	1	3	1			821	（平成17年1月～平成17年4月）
過去1年計	1553	755	233	75	12	14	3	2	1	2648	（平成16年5月～平成17年4月）

注)①「記事」欄の「*」は関連の地震で震度1以上が観測された地震の回数。「記事」欄には主に震度5弱以上を観測した地震、または震度1以上が10回以上観測された地震活動について記載した。

②地方公共団体等の震度計による震度の発表開始年月日。

平成9(1997)年11月10日 秋田県、埼玉県、横浜市（神奈川県）、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県

平成10(1998)年6月15日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県

10月15日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、
宮崎県、鹿児島県

平成11(1999)年7月21日 東京都、長野県

平成12(2000)年1月12日 栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市（愛知県）

3月28日 滋賀県

7月18日 富山県、香川県、大分県

平成13(2001)年3月22日 佐賀県 5月10日 山梨県、川崎市（神奈川県）

7月19日 高知県 12月12日 福島県

平成14(2002)年3月20日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市（宮城県）

7月29日 北海道、長崎県

平成15(2003)年3月10日 沖縄県

平成16(2004)年5月26日 独立行政法人防災科学技術研究所

●表 2
日本及びその周辺におけるマグニチュード (M) 別の月別地震回数
＜平成16年（2004年）4月～平成17年（2005年）4月＞

	M3.0 ～ M3.9	M4.0 ～ M4.9	M5.0 ～ M5.9	M6.0 ～ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
2005年 4月	366	66	8	2		442	76	11日：千葉県北東部 (M6.1) 19日：鳥島近海 (M6.0) 福岡県西方沖の地震の余震 (M3.0～3.9：38回、M4.0～4.9：8回、 M5.0～5.9：3回)
2005年 3月	618	89	7	1	1	716	98	6日：台湾付近 (M6.2) 20日：福岡県西方沖 (M7.0) 福岡県西方沖の地震の余震 (M3.0～3.9：188回、M4.0～4.9：16回、 M5.0～5.9：1回) 房総半島南東沖の地震活動 (M3.0～3.9：103回、M4.0～4.9：6回)
2005年 2月	326	58	11	1		396	70	10日：父島近海 (M6.5) 新潟県中越地震の余震活動 (M3.0～3.9：6回、M4.0～4.9：2回) 房総半島南東沖の地震の余震 (M3.0～3.9：31回、M4.0～4.9：2回、 M5.0～5.9：1回)
2005年 1月	468	86	13	2		569	101	18日：釧路沖 (M6.4) (M3.0～3.9：12回、M4.0～4.9：7回、 M5.0～5.9：0回、M6.0～M6.9：1回) 19日：房総半島南東沖 (M6.8) 房総半島南東沖の地震の余震 (M3.0～3.9：120回、M4.0～4.9：18回、 M5.0～5.9：5回) 新潟県中越地震の余震 (M3.0～3.9：12回、M4.0～4.9：2回)
2004年12月	411	92	9	2		514	103	6日：釧路沖 (M6.9) (M3.0～3.9：43回、M4.0～4.9：18回、 M5.0～5.9：1回、M6.0～M6.9：1回) 14日：留萌支庁南部 (M6.1) 新潟県中越地震の余震 (M3.0～3.9：18回、 M4.0～4.9：2回、M5.0～5.9：1回)
2004年11月	402	99	22	4	1	528	126	7日：オホーツク海南部 (M6.0) 9日：台湾付近 (M6.4) 11日：釧路沖 (M6.3) 29日：釧路沖 (M7.1)、釧路沖 (M6.0) (M3.0～3.9：39回、M4.0～4.9：14回、 M6.0～6.9：1回、M7.0～M7.9：1回) 新潟県中越地震の余震 (M3.0～3.9：81回、 M4.0～4.9：12回、M5.0～5.9：8回)
2004年10月	639	138	23	6		806	167	15日：与那国島近海 (M6.6) 23日：新潟県中越地震 (M6.8) 新潟県中越地震の余震 (M3.0～3.9：268回、M4.0～4.9：71回、 M5.0～5.9：13回、M6.0～6.9：5回) 紀伊半島沖・東海道沖の地震の余震 (M3.0～3.9：42回、M4.0～4.9：7回)
2004年 9月	737	135	20	2	2	896	159	5日：紀伊半島沖 (M7.1)、東海道沖 (M7.4) 紀伊半島沖・東海道沖の余震 (M3.0～3.9：484回、M4.0～4.9：69回、 M5.0～5.9：7回、M6.0～6.9：2回、 M7.0以上：2回)
2004年 8月	317	83	8			408	91	
2004年 7月	330	115	15	2		462	132	08日：千島列島 (M6.3) 22日：沖縄本島近海 (M6.1) フィリピン パタン諸島付近の地震活動 (M4.0～4.9：49回、M5.0～5.9：6回)
2004年 6月	329	77	10			416	87	
2004年 5月	324	68	17	2		411	87	19日：台湾付近 (M6.1) 30日：房総半島南東沖 (M6.7)
2004年 4月	301	74	8			383	82	
2005年計	1778	299	39	6	1	2123	345	(平成17年 1月～平成17年 4月)
過去 1 年計	5267	1106	163	24	4	6564	1297	(平成16年 5月～平成17年 4月)

注) 日本及びその周辺：北緯20～49度、東経120～153度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

●世界の主な地震

4月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

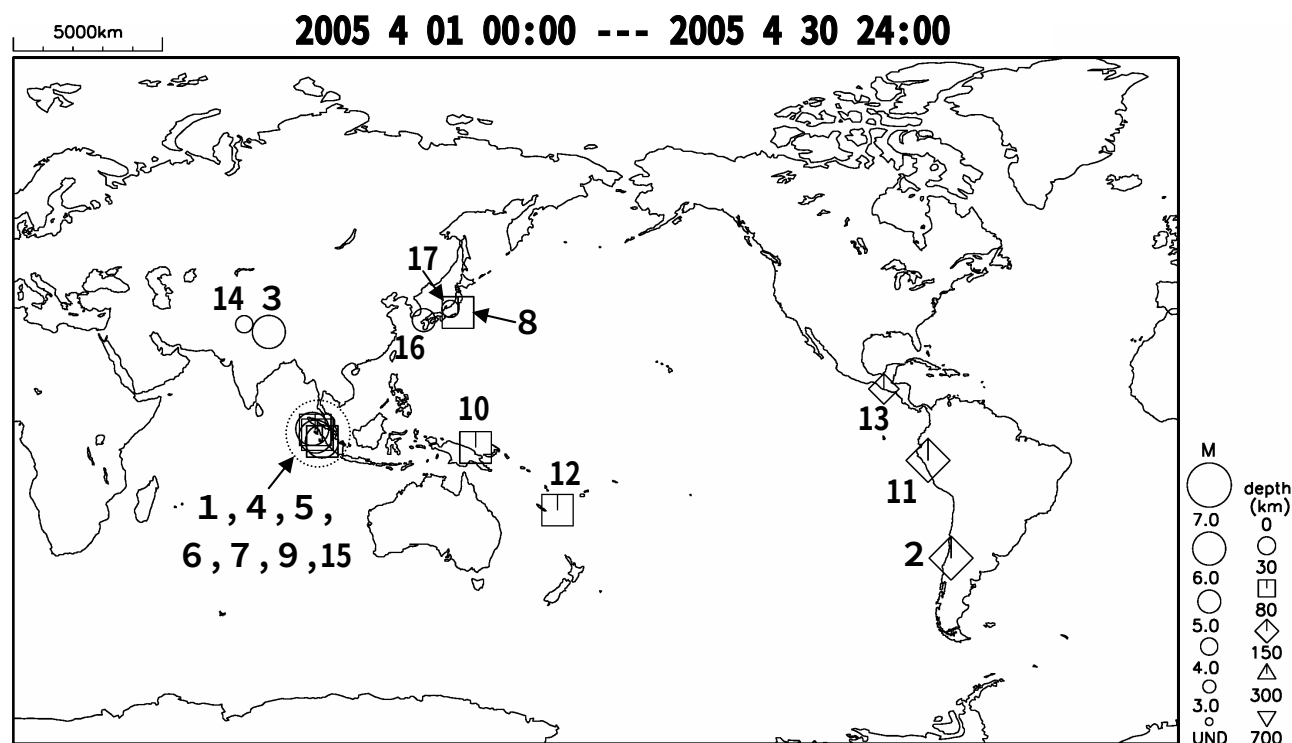


図1 2005年4月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布
 <震源要素は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による>

* : 数字は、表1の番号に対応する。

** : マグニチュードは mb（実体波マグニチュード）、Ms（表面波マグニチュード）のいずれか大きい値を用いて表示している。

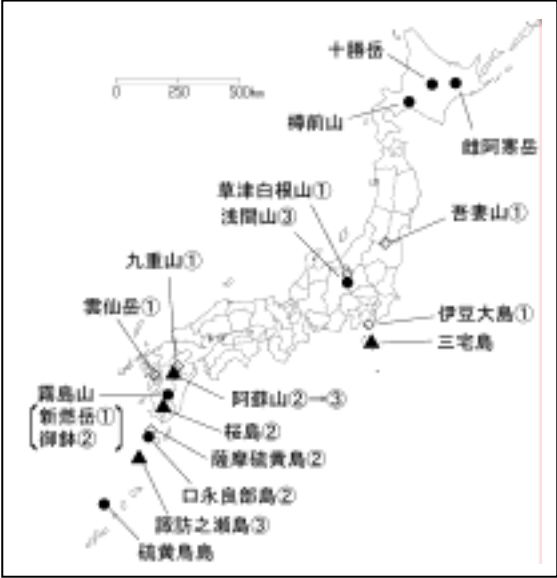
表1 2005年4月に世界で発生したマグニチュード6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	月日時分	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震央地名	被害状況
1	04月03日09時59分	N 0° 22.2'E 98° 19.3'	30*	5.9	6.0	6.0		インドネシア,スマトラ島北部	
2	04月06日19時46分	S35° 21.3'W 70° 57.1'	118	6.0				チリ-アルゼンチン国境付近	
3	04月08日05時04分	N30° 29.5'E 83° 39.8'	11*	6.0	6.1	6.2		チベット	小被害
4	04月08日14時48分	S 0° 11.4'E 97° 42.4'	19	5.8	6.3	6.1		インドネシア,スマトラ島	
5	04月10日19時29分	S 1° 37.6'E 99° 37.6'	19*	6.4	6.7	6.6		インドネシア,スマトラ島	スマトラ島パタンで波高40cmの津波
6	04月10日20時14分	S 1° 42.6'E 99° 46.2'	30*	6.2	6.3			インドネシア,スマトラ島	
7	04月11日02時24分	S 1° 35.1'E 99° 42.7'	30*	5.9	6.2	6.4		インドネシア,スマトラ島	
8	04月11日07時22分	N35° 43.6'E140° 37.2'	52	6.1	(6.1)	6.0		千葉県北東部	負傷者1名、窓ガラス破損1件
9	04月11日15時11分	N 2° 09.9'E 96° 45.5'	24*	5.9	6.1	6.1		インドネシア,スマトラ島北部	
10	04月11日21時20分	S 3° 28.5'E145° 53.8'	35	5.9	6.7	6.5		ニューギニア島北部沿岸付近	
11	04月11日23時54分	S 7° 21.9'W 77° 53.2'	130	6.2		5.9		ペルー北部	
12	04月12日02時08分	S22° 02.1'E170° 34.4'	68*	6.0		6.8		ローヤリティー諸島付近	
13	04月12日11時40分	N14° 07.1'W 91° 11.0'	108	5.2				グアテマラ	住家被害3棟以上
14	04月14日16時11分	N32° 35.6'E 76° 14.7'	17	4.7				カシミール-インド国境付近	小被害
15	04月17日01時38分	N 1° 49.0'E 97° 38.7'	31*	6.0	6.4	6.3		インドネシア,スマトラ島北部	
16	04月20日06時11分	N33° 40.6'E130° 17.2'	14	5.3	(5.8)	5.5		福岡県西方沖	負傷者58名、住家一部破損279棟、 建物火災1件（4月20日18時00分現在）
17	04月23日00時23分	N36° 39.7'E138° 17.7'	4		(4.1)			長野県北部	負傷者1名、窓ガラスひび割れ3件など （4月23日14時00分現在）

- ・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による（2005年5月9日現在）。ただし、日本付近で発生した地震については震源要素及びマグニチュード（Msの欄に括弧を付して記載）は気象庁、被害状況は総務省消防庁による。
- ・時分は震源時で日本時間〔日本時間＝協定世界時＋9時間〕である。
- ・MwはUSGSのモーメントマグニチュードである。
- ・震源の深さに「*」が付いているのは、USGSが推定した深さである。

平成 17 年 4 月の主な火山活動

記事を掲載した火山



【記号の意味】

- ▲：噴火した火山
 - ：活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化のあった火山
 - ◇：その他記事を掲載した火山
 - ①②等丸付き数字：期間中の火山活動度レベル
- 以下、火山名に下線を引いた火山のみ、説明資料（火山活動解説資料）を配布する。

過去 1 年間の月別火山活動

火 山 名	平成16年（2004年）												平成17年（2005）			
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月
雌阿寒岳					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
十勝岳					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
樽前山					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
草津白根山	●								●							
浅間山	●	●	●	●	▲	▲	▲	▲	●	●	●	●				
富士山		●														
伊豆東部火山群	●															
伊豆大島		●	●		●	●	●	▲	▲	●	●	●	●	●	●	▲
三宅島	●	●	●	●	●	●	▲	▲								
伊豆大島			●	●		●									●	
西之島						●										
硫黄島		●														
福徳岡ノ場		●		●	●	●	●			●	●	●				
阿蘇山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	▲
霧島山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
桜島	▲	▲	▲	▲			▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
薩摩硫黄島	●	▲	●	▲	▲	▲										
口永良部島	●	●	●	●						●	●	●	●	●	●	●
諏訪之瀬島	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
硫黄島			●	●												●

過去 1 年間の各火山の火山活動度レベル

火 山 名	平成16年（2004年）												平成17年（2005）			
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月
吾妻山															①	①
草津白根山															①	①
浅間山	②	②	②→①→②	②	②→③	③	③	③	③	③	③	③			①	①
伊豆大島	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①			①	①
九重山															①	①
阿蘇山	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②→③			②	②
雲仙山	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①			①	①
霧島山（新燃岳）															①	①
（御 鉢）															②	②
桜島	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②			②	②
薩摩硫黄島															②	②
口永良部島															②	②
諏訪之瀬島															③	③

- 雌阿寒岳 ポンマチネシリ 96－1 火口は噴煙の状況に変化がなく高温の状態が続いていると推定され、火山活動はやや活発な状態が続いている。
- 十勝岳 62－2 火口は噴煙活動が活発で高温の状態が続いていると推定され、火山活動はやや活発な状態が続いている。
- 樽前山 A火口及びB噴気孔群は噴煙の状況に変化がなく高温の状態が続いていると推定され、火山活動はやや活発な状態が続いている。
- ◇ 吾妻山 [火山活動度レベルは1（静穏な火山活動）]
- ◇ 草津白根山 [火山活動度レベルは1（静穏な火山活動）]
- 浅間山 [火山活動度レベルは3（山頂火口で小～中噴火が発生する可能性）]
噴火の発生はなかったが、微弱な火映が山麓の高感度カメラで頻繁に観測された。火山性地震及び微動のやや多い状態は依然として続いている。
- ◇ 伊豆大島 [火山活動度レベルは1（静穏な火山活動）]
- ▲ 三宅島 12 日にごく小規模な噴火が発生した。山頂火口からの火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2004 年秋以降、日量 2 千～5 千トン程度で、依然として多い状態が続いている。
- ◇ 九重山 [火山活動度レベルは1（静穏な火山活動）]

▲ 阿蘇山 [14日に火山活動度レベルを2（やや活発な火山活動）から3（小規模な噴火の可能性）に変更]

14日にごく小規模な噴火が発生し、中岳第一火口周辺で降灰があった。引き続き小規模な噴火の可能性がある判断し、同日火山活動度レベルを2から3に変更した。噴火が観測されたのは昨年1月14日以来であった。中岳第一火口では、湯だまり内で小規模の土砂噴出が継続して観測され、湯だまり量は8日に約3割から約2割に減少、湯だまりの表面温度は概ね70℃前後で高い状態が続いている。火山性連続微動が16日から継続して観測され、28日頃から振幅がやや大きくなっている。孤立型微動及び火山性地震はやや多い状態で推移した。

◇ 雲仙岳 [火山活動度レベルは1（静穏な火山活動）]

● 霧島山 [火山活動度レベルは御鉢が2（やや活発な火山活動）、新燃岳が1（静穏な火山活動）]
御鉢火口の噴気活動は依然としてやや活発な状態が続いている。

▲ 桜島 [火山活動度レベルは2（比較的静穏な噴火活動）]

ごく小規模な噴火が時折発生したが、爆発的噴火等¹⁾は観測されなかった。火山性地震の発生は総じて少ないものの、A型地震²⁾のやや多い状態が続いている。また、GPSによる地殻変動観測では、昨年11月頃から本年2月にかけて各観測点間の距離の伸びが加速する傾向が見られていたが、本年3月以降は伸びの傾向が緩やかになった。

- 1) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的噴火もしくは一定の規模以上の噴火の回数を桜島の噴火回数として計数している。今期間はこれらに該当する噴火は観測されなかった。
- 2) 火山性地震には、通常の構造的な地震と同じようなP波、S波が明瞭で高周波の波動からなるA型地震と、位相が不明瞭な低周波のB型地震があります。桜島のA型地震は、マグマ等の貫入に伴い地殻が破壊されるために発生していると考えられ、B型地震はマグマ内の火山ガスの発泡等によって火道内で発生する地震とされています。過去の活動において、A型地震が多発し、震源が浅部に移動した後、B型地震が増加し噴火活動が活発になった事例があります。）

◇ 薩摩硫黄島 [火山活動度レベルは2（やや活発な火山活動）]

● 口永良部島 [火山活動度レベルは2（やや活発な火山活動）]
火山性地震のやや多い状態が続いている。

▲ 諏訪之瀬島 [火山活動度レベルは3（小規模な噴火が発生）]

噴火が4～6日、8日、23日及び25～27日に観測された。爆発的噴火はなかった。26日に集落（御岳の南南西約4km）で降灰があった。

● 硫黄島 沖永良部島（硫黄島島の南東約65km）から、25日に噴煙の目撃情報があった。26日に行われた海上保安庁の上空からの観測によると、白色の噴煙が上がっているのが確認された。

平成 17 年 4 月の火山情報発表状況

火 山 名	情報の種類及び号数	発表日時	概 要
浅 間 山	火山観測情報第 94 号 ↓（1 日 1 回発表） 火山観測情報第 123 号	1 日 16:00 ↓ 30 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、噴煙・火映・地震・微動・地殻変動の状況・上空からの観測結果（120 号）・火山ガス観測結果（121 号）及び上空の風の予想）。レベルは 3。
三 宅 島	火山観測情報第 179 号 ↓（1 日 2 回発表） 火山観測情報第 201 号	1 日 09:30 ↓ 12 日 09:30	前日 15 時～当日 09 時もしくは当日 09～15 時の活動状況、及び上空の風の予想。
	火山観測情報第 202 号	12 日 16:30	島内の調査でごく微量の降灰を確認。早朝にごく小規模の噴火が発生した可能性あり。12 日 09～15 時の活動状況、及び上空の風の予想。
	火山観測情報第 203 号 ↓（1 日 2 回発表） 火山観測情報第 238 号	13 日 09:30 ↓ 30 日 09:30	前日 15 時～当日 09 時もしくは当日 09～15 時の活動状況、及び上空の風の予想。
阿 蘇 山	火山観測情報第 13 号	1 日 11:00	火山活動は引き続きやや活発（土砂噴出発生、湯だまりの表面温度高い、地震やや多い）。レベルは 2。
	火山観測情報第 14 号	8 日 11:00	火山活動は引き続きやや活発（孤立型微動及び地震やや多い）。レベルは 2。
	臨時火山情報第 1 号	14 日 12:00	中岳第一火口周辺で降灰を確認。レベルを 2 から 3 に変更。
	火山観測情報第 15 号	14 日 17:45	ごく小規模の噴火発生。現地観測結果（降灰の状況、火口内の状況）。レベルは 3。
	火山観測情報第 16 号	15 日 12:20	14 日 20 時 41 分に土砂噴出に伴う震動波形を観測。14 日 20 時及び 15 日 10 時の現地観測結果（火口内の状況）。レベルは 3。
	火山観測情報第 17 号	15 日 16:10	上空からの観測結果。レベルは 3。
	火山観測情報第 18 号	18 日 11:15	16 日未明より連続微動発生。18 日午前の現地観測結果（火口内の状況）。レベルは 3。
	火山観測情報第 19 号	22 日 11:30	火山活動は活発な状態が継続（15 日以降噴火はなし、連続微動継続）。レベルは 3。
	火山観測情報第 20 号	25 日 11:10	
	火山観測情報第 21 号	28 日 11:00	火山活動は活発な状態が継続（15 日以降噴火はなし、連続微動継続し振幅やや大きい）。レベルは 3。
口永良部島	火山観測情報第 15 号	1 日 14:00	やや活発な火山活動継続。レベルは 2。
	火山観測情報第 16 号	8 日 14:00	火山性地震の発生回数減少。長期的にはやや活発な火山活動が継続。レベルは 2。
	火山観測情報第 17 号	15 日 14:20	やや活発な火山活動が継続。レベルは 2。
	火山観測情報第 18 号	22 日 14:30	